

ユ
デ
イ
ト
書

(1) これは「アラム語」の呼び方、アラム語では、ナブ・カド・ネザル、ギリシア語ではテテン語ではナブ・カド・ノンル。バビロニアの王（604—562 B.C.）ハルサレムを占領し（587 B.C.）、ユダヤ人をとりこむし、バビロニアに連れていった。この王は本書に二十回出る。そのうち少なくとも六回はアッシャー王と呼ばれ、二十六で統治していたことになっている。しかし史実ではニネベはネブ・カド・ネザル王以前に滅亡している（612 B.C.）。ここに記述するネブ・カド・ネザルという名は、残虐者、暴君、政者の代表的人物であるペルシア王アルタクセス二世（358—338 B.C.）をさしてくるとするのが、聖書学者の通説である（解説90—91ページ参照）。したがって「治世第十二年」は、この年代を採用すると紀元前三四六年にあたる。

(2) メディアの王アルファクサドの名は史実には見えない。アッシュール・バーン・アブリとの戦いで戦死したメディア王国の創始者フラオルテベ（675—653 B.C.）をさしてくるという説もある。

(3) 「ハクバタナ」については、レピトの社（参照）。

(4) 原始的尺度。ひじから中指の先端までの長さで約四十五センチ。一般にはラテン語の「クビト」という単位名で表わされている（創6注9参照）。

(5) ブルガタ訳には「ユーフラテス川、チグリス川、ヤダソン川の周辺にあるラガウと呼ばれる大平野、すなわちエリマイ人の王アリオクの平野」（1-6）とするされている。この地方はメディアの山地に位置するラゲス（トビト1注10参照）と同視されている。

(6) ブルガタ訳ではヤダンン。インダス川と合流する川で、インダス川の西北の大河とする学者もあるが、むしろペルシア湾に注ぐ現在のシャット・エル・アラブ川にはいり、スサの地方を流れるコーアスペス川とするほうがよ。

(7) ハリマイ人（マカバイ上6-1参照）の王アリオクは歴史上不明。

(8) このことばは、アルファクサドと連合した前述の国の人々をさしているともいえるが、カルデヤ人をそれと見るとする説が一般的である（5-6参照）。

(9) 7節から10節までに列挙された国名は、ネブ・カド・ネザルが、アルファクサド王と戦うために自分に味方するように勧めた国々である。これらはペルシアを除くほかのすべて西方の国々である。西方民族の名が詳しくしるされている。

大都市ニネベでアッシリア人を治めたネブカドネザル王の治世第
2
アルファクサド
3
と 戰 う
4
及んだ。一また門の高さを七十アンマ、幅を四十アンマに築いたので、その大軍はここ
から出陣し、歩兵は隊を組んで行進することができた。
5
6
7
そのころネブカドネザル王は、ラガウ⁽⁵⁾地方の大平野で、アルファクサド王と戦った。
アルファクサドのもとには、山地のすべての人々、ユーフラテス、チグ里斯、ヒダスペ
スの沿岸に住む人々、およびエリマイ人の王アリオク⁽⁷⁾の支配下にある平野の人々が集ま
つた。また多くの民もレウドの子らとともに参戦するために集まつた。
そこでアッシリア人の王ネブカドネザルは、ペルシアに住むすべての人々、西方に住

軍隊と、またかれと連合した軍隊の大軍勢とともにニネベにがいせんし、そこでかれもその軍隊も、百二十日間、じゅうぶんに休息し、祝宴を催した。

ホーフエルネス

連合した軍隊の大軍勢とともにニネベにがいせんし、そこでかれも日間、じゅうぶんに休息し、祝宴を催した。

アッシャリア人の王ネブカドネザルの治世第十八年⁽¹⁾、第一の月の二十二日、すでに王が誓つたとおり、全地に対する復しゅうについての会議が、宮殿において行なわれた。—王はすべての臣下と高官を

(10) レバノンの東側の山地をさす。

(11) 大平野エズドレロンの名は本書だけにしるされている(18394673)。それはヘブライ語のエズレルヨシュア19¹⁸、士6³³参照)という町の名からとられている。この大平野は、サマリアの山々、カルメル山とガリヤの山々の間にあり、有名な軍用道路となつてゐる。

(12) または「ベイタネ」「ベタネ」。多分ヘブロンの東北八キロに位する現在のベイト・アイヌンをさし、ヨシア15⁵⁹の「ベテアノテ」と同じであらう。

(13) ベエルシバの西南エル・ハラをさすものと思う。

(13) ベエルシバの西南エル・ハラサをさるものと思う。
(14) ベエルシバの南、百キロの地点。
またはアイン・ケデイス。カデシ・バルネアである。
ナイル川ではない。昔からハレスチナとエジプトの国境をなしているワディ・エル・アリシュの流れ。
(15) 三角州の東、メンザレ湖に近い現在のテル・デフエンヌ。
(16) 三角州の町で、タニスあるいはカンティル（創47注5参照）。
(17)

(1) 下エジプトの首都であった。エジプト語でメン・ノフェル、ヘブライ語でノフ、またはモフ。
(20) 前述の国々に、アンモンとユダヤの国を追加したのは、本書の主人公であるユディットがユダヤ人であり、またアキオルはアンモン人であったからである。

(21) この表現は明らかでない、「二つの海」は紅海と地中海を示してゐる。〔ブルガタ訳では第十三年〕に、

むすべての人々、キリキア、ダマスコ、レバノンとアンチ・レバノンに住む人々、およ
び沿岸地方に住むすべての人々、カルメルとギレアデの住民、上ガリラヤのエスドレ
ロンの大平野⁽¹¹⁾、サマリアとその町々の人々、ヨルダン川のかなた、エルサレムに及ぶ
まで、またバタネ⁽¹²⁾、ケロウス⁽¹³⁾、カデシ⁽¹⁴⁾、エジプトの川⁽¹⁵⁾、タパネス⁽¹⁶⁾、ラメス⁽¹⁷⁾、ゴセン⁽¹⁸⁾の全
地、タニスとメンフィスのかなた、エチオピアの境に至るまでのエジプトの住民に使
者をつかわした。しかしこれらの地方の全住民は、アッシリア人の王ネブカドネザル
の命令を軽んじ、出陣に応じなかつた。かれらは王を恐れず、全くかれを一介の人間と
みなしたからである。それでその使者をはずかしめ、むなしく帰らせた。

16 15 14 13 12

ネブカドネザルは、その全地方に對し大いに怒り、キリキア、ダマスコ、シリアの全地、ならびにモアブの地の全住民、アンモンの子ら、全エダヤとエジプトのすべての住民に、二つの海の境に至るまで、復しゅうし、剣をもつてみな殺しにしようと、王位と王国とにかけて誓つた。—それで王はその治世の第十七年、アルファクサド王に對して兵を進め、一戦を交えてかれを打ち破り、アルファクサドの全軍と全騎兵隊と、すべてのいくさ車とを粉碎し、その町々を占領し、エクバタナまで進み、塔を奪い取り、広場をかすめ、その榮華をはずかしめた。—そしてアルファクサドをラガウの山中に捕え、投げやりで刺し殺し、今日に至るまで全くかれを滅ぼしてしまつた。—こうして王はその

そこでホロフェルネスは、その主の面前を退出し、アッシリア軍のすべての長官と隊長と将校とを招集した。一かれが主の命令どおり、戦陣を整えるために選抜した男は十
二万、弓を使う騎馬兵は一万二千に及び、一戦時編成の大軍のように、かれらを組織した。¹⁷またかれは荷物を運ぶために、非常に多くの群れのらくだと、ろばと、らばを、¹⁸また食べ物のために無数の羊と牛とやぎとを集め、一さらにひとりひとりのために、多¹⁹

西方討伐が開始された。本書のネブカドネザルが、バビロニア王ネブカドネザルをさすのであれば、その治世第十八年は、エルサレムが占領された紀元前五八七年となる（エレミヤ⁵²⁻²⁹）。しかしここに出るネブカドネザルは、一般の説に従えば、アルタクセルクセス三世オコスをさすものであって、その治世第十八年は紀元前三四〇年にあたる（¹注¹参照）。

(2) ペルシア人に固有名。アルタクセルクセス三世と同時代のカパドキアの王アリアラテスにはホロフェルネスという兄弟があつたが、おそらく本書のホロフェルネスはかれと同一人物であると思われる（解説⁹¹ページ参照）。東方の国では、連合軍あるいは占領地の貴族に、重要な地位を与える慣習があった（創⁴¹⁻³³、エステル⁸⁻²⁸参照）。それでペルシア人とともにエジプトと戦ったホロフェルネスは、総司令官であり、王に次ぐ地位を有していた（歴上¹⁶⁻⁵、歴下²⁸⁻⁷、エステル³⁻¹³参照）。

(3) ペルシアとアッシリアの王の公式の呼び名。勅令の冒頭に用いられる「全地の主」ということばには、政治的意味もあり（列下¹⁸⁻¹⁹、エズラ¹⁻²）、宗教的意味もある（ユディト³⁻⁹）。

(4) この表現は完全な服従をさし、占領軍に食糧を提供するの意。ダレイオスやクセルクセス一世の時代から、ペルシアの文書によく見られる表現。

(5) ネブカドネザルが、ホロフェルネスに与えた計画は、国を占領して略奪し（⁷節）、民を殺し（⁸節）、捕虜にすること（⁹節）の三つであった。これらのことと東洋的な誇張した表現で書き述べている。

召集し、秘密の計画を示し、その地を全滅することを、口ずから明らかに語った。一そこでかれらは王の命令に従わなかつたすべての者を滅ぼすべしと決議した。一会議が終わった時、アッシリア人の王ネブカドネザルは、その軍隊の総司令官であり、かつ王に次ぐ位にあるホロフェルネス⁽²⁾を呼び出して言つた、「全地の主⁽³⁾である大王はこう言う、おまえは、わたしの面前を退出し、無双の武勇をほこる十二万の歩兵と一万二千の多くの騎兵と馬を率いて、一わたしの口から出したことばに服従しなかつた西方の全地を討て。一かれらに土地と水を準備するよう告げよ。わたしは怒りに燃えてかれらに向かって進軍し、全地をわが軍隊^{*}の足でおおい、兵士たちにかれらを分どり品として与えよう。一その谷は負傷者で満ち、小川や奔流は死体でせき止められてあふれるであろう。またかれらをとりことして地のはてまで追いやろう。⁽⁴⁾さあ、行け。先に行つてかれらの地をわたしのために占領せよ。かれらはおまえに降服するであろう。そしてわたしのために、処刑の日まで捕えておけ。一おまえに任したその地で、もし手向かう者があれば、あわれむことなく、その者を減びと略奪に渡せ。一わたしは自分の命と王国の力にかけて言つたことを、わたしの手で実行する。一おまえは、おまえの主であるわたしの命令に、いささかもそむくことなく、命じたとおり、これを成し遂げよ。成し遂げることをためらってはならない」。

(18) (17) 多分ツロのくり返しか、またはカルメル山の南のドルである。
おそらくアソコ。
(19) パチカン本は「エムナア」。エルサレムの南西、八十一キロの地点にある現在のエブナ。
(20) ギリシア語本は「アゾトス」。現在のエスドウド（サムエル上5-1参照）。
現在のヒルベト・アシカラノ（サムエル上6-17参照）。

(11) どうしてホロフェルネスが、突然キリキアからメソポタミアに引き返したかを説明して、多分メソポタミアで反乱が起り、これを鎮圧するためであったという者もある。しかしそれよりも、本文自体が前後して、メソポタミアへの進軍がここにしるされているのであるうと考えるのが正しいようである。

(12) シナイ写本では「ケブロン」、ブルガタ訳では「マンブレ」、シリア語訳では「ヤボック」となつており、確定しがたい。

(13) 聖書によるミデアンの子らは、シナイ山の近く（出²₁₅—²¹参照）、またはモアブの国に住む民である（民²²₄—⁷、³¹₁—⁸参照）。おそらく遊牧の民をさしているものと思う。

(14) シリアとバレスチナでは、一度収穫があつた。四月ごろには小麦を、五・六月ごろには大麦を収穫する。

(15) 現在のザイダ。

人々に臨んだ。アシドド⁽²⁰⁾、アシケロン⁽²¹⁾、ガザ*に住む人々も、かれを非常に恐れた。

(6) アッシリア軍はニネベを出發し、國境を越えてベクチレトの平野に到着した。ベクチレトの所在は不明。ある地理学者は、アンティオキアから四十キロ離れたシリアの町ベクタイラであるとしている。他の学者はタウルス山とアルジェ山の間のカバドキアのバガダニア平野とみなしている。しかし三日間でニネベからバガダニアまで進軍することは當時としては不可能である。おそらく途中に、本書にはしるされていない駐留地があつて、そこからバガダニアまで三日間で行けたのであろう。

かれらはニネベを出發し、三日間で、ベクチレトの平野まで進み、⁽⁶⁾ 上キリキアの北にある山の近くで、ベクチレトに向かいあっての子らと、ケレ人の地の南のさばくの周辺に住むイシマエルの子らとをとりこにした。さらにはユーフラテスを渡り、メソポタミアを横切り、アブロナの流れに沿つて建てられた丘の上の町々を滅ぼして、海にまで達した。ついでキリキアの地を占領し、はむかうすべての者を殺し、アラビアに面するヤペテの南の境まで進んだ。そしてすべてのミデアン⁽¹³⁾の子らを包囲し、その幕屋を焼き払い、羊の群れを略奪した。麦の収穫時に、ダマスコの平野に下り、その畑を焼き、牛や羊の群れを殺し、町々をかすめ取り、土地を荒らし、若者を剣の刃にかけてことごとく殺した。それで恐れとおののきが、シドン⁽¹⁵⁾とツロ⁽¹⁶⁾の海べに住むすべての人々、スルとオキナ⁽¹⁸⁾、ヤムニア⁽¹⁹⁾に住むすべての

くの食糧を集め、また多額の金と銀を王の家から受けた。こうしてかれはネブカドネザル王の先発隊となり、西方の全地をいくさ車、騎兵、精銳な歩兵でことごとくおおうため、全軍を率いて出発した。かれらに付き従つた雑多な群衆はいなごの群れや地の砂のようだ、その数は数えきれないほどであった。

そこでかれらはホロフエルネスに使者を送り、和を講じて言わせた、「ごらんください、ネブカドネザル大王のしもべであるわたしたちは、あなたの前にひれ伏しています。わたしたちをお望みどおりにしてください。」ごらんください、わたしたちの家屋、すべての土地、すべての麦畠、また羊や牛、すべて匂いの中のわたしたちの陣屋は、あなたの前にあります。「ごらんください、わたしたちの町々とその住民も、あなたの奴隸です。おいでになり、あなたが良いと思うようにお使いください。」

使者たちはホロフエルネスのもとに来て、以上のことを告げた。そこでかれは軍隊を率いて、海べにくだり、要害都市に守備隊を置き、市民の中から選抜した男を補充兵として選んだ。一その住民とすべての周囲の地方の人々は、花の冠と踊りと鼓とでかれらを迎えた。⁽²⁾しかしホロフエルネスは、国中の神々を滅ぼす使命を受けていたので、かれはすべての聖所^{*}を破壊し、聖林⁽³⁾を切り倒し、すべての民にネブカドネザルを崇拜さ

せ、それらのすべての舌、すべての種族に、かれのみを神と呼ばせた。⁽⁴⁾
そしてかれはユダヤの大平野^{*}に面するドタン⁽⁵⁾の近くのエスドレロンに向かって進み、
ガイバ⁽⁶⁾イとスキトポリス⁽⁷⁾の間に陣を張り、軍隊の荷物を集めるために、そこに一か月間
とどまつた。

さてユダヤに住むイスラエルの子らは、アッシリア人の王ネブカドネザルの総司令官ホロフエルネスが、諸国民に対して行なつたすべてのこと、ならびにかれらがすべての聖所を略奪し、それらを破壊したことを耳にした。—それでイスラエルの子らは、かれを顔前に迎えていたく思れ、エルサレムと、その主なる神の宮について心を痛めた。⁽¹⁾—かれら

(1) かれらに向ひかの「さんくわざ」を三回繰り返す。まだ完全な陰形を三回も繰り返している。(104頁)

(2) 「花の冠」は旧約聖書では後代のものにだけ見られる(シラ32²、知2⁸参照)。なおブルガタ訳は「花の冠、たいまつ、舞踊、また鼓と笛などをもつて、かれを歓迎した」(310)と、歓迎の祭りをより莊厳にしている(士11³⁴参照)。

(3) 山上のほこらと、それを囲む聖林のある所は、壳春の場所であり、聖林（アシェラ）は女神を象徴している（出³⁴₁₃、申⁷₅ 参照）。

(6) ある学者はセバスティエの東北五キロにある現在のダバとしているが、エスドレヨンの東端にあるギレードに及んで(たとえばアレキサンドロス大王のように)「王たちは神」の称号を公式に用いるようになった。

(5) ドタンは現在のテル・ドーター(創37:17、ユダイト4:6-7、8:3参考)。この町はナザレの南四十キロ、エルサレムの北百キロの地点。

ア山とするほうが正しい。

(7) ギリシア時代のベテシャン(ベイサン)は、この名で呼ばれていた。ベテシャンは要害の地で、そこからメギドを通ってヨルダンの谷にはいることができる。

（1）ホロフエルネスがユダヤに近づいた時のイスラエル人の感情を、「恐れ」と「心を痛めた」の二語で現わ

が幽囚の地から帰ったのは先ごろのことであり、またユダヤのすべての人々がいつしよに集まつたのも最近のことである。汚された聖器と祭壇と神殿とは清められたばかりだつたからである。⁽²⁾かれらはサマリア⁽³⁾の全地方、コナ⁽⁴⁾、ベテホロン⁽⁵⁾、ベルマイ⁽⁶⁾、エリコ、コバ⁽⁷⁾、アイソラ⁽⁸⁾、およびサレムの谷に知らせを送つた。そこで人々はただちにすべての高い山々の頂を確保し、その村々を固め、さらに畠の取り入れが終わつたばかりだったので、戦いの準備に食糧をたくわえた。

その時、エルサレムに住む大司祭ヨアキムは、ドタンの近くの平野に面したエスドレロンの向かいのベトメスタイル⁽¹⁰⁾とベツリア⁽¹¹⁾の住民に書を送つて、山地の峠を固守することを命じた。これらの峠はユダヤにはいる通路で、道幅は狭く、やつとふたりが通れるほどの道であったため、侵入を試みる者を容易にくい止めることができたからである。それでイスラエルの子らは、大司祭ヨアキムと、全イスラエルの長老らが、エルサレムの会議で決めたように行なつた。

イスラエルのすべての人々は、非常な熱心をもつて神に叫び、きびしい断食^{*}をもつて身をいやしめた。かれらは、その妻も子も、家畜も、すべての同居人も雇い人も、金で買われた奴隸もみな、荒衣を腰にまとつた。エルサレムに住むイスラエルの男も女も子ども

全イスラエル 神の助けを祈る

している。これはかれらが、他の国々の聖所が破壊されたように、聖なる都エルサレムと、その神殿も破壊されるだらうことを恐れて、心を痛めたことを示す。

(2) 本節はブルガタ訳にはない。ここには年代の異なる二つの出来事が同時にしるされている。第一はユダヤ人が幽囚の地ベビロニアから帰つて来たことである。これはキロス王の詔書発布(583 B.C.)の時に始まり、エズラとともに帰國した最後のイスラエル人(398 B.C.)をもつて終つた。第二はアンティオコス四世(165 B.C.)に汚された神殿が、再び清められたことである。ユダヤ人たちは、かれらが常にたいせつにしてゐる神殿が、再びホロフエルネスの軍隊によつて破壊されることを憂えている。

(3) ブルガタ訳はサマリアとエリコだけをしるしている。

(4) 所在不明。ある訳はコナの代わりにコマス(村々)と解釈している。

(5) この名をもつ町は二つある。一つは上ベテホロン(標高六一七メートル)で、現在のベイト・ウル・エル・ファウカで、エルサレムの北西四十八キロの町であり、他の一つは下ベテホロンで、現在のベイト・ウル・タハタ。上ベテホロンから四キロの町。

(6) エルサレムの北一〇八キロ、ジェンニンの南二キロにある現在のヒルベト・ビル・ベラス。列下9²のイブレアムと同じ。なおベルバイン(7³)もバラモン(8³)も名は少し異なるが同地をさすものと思われる。

(7) ある学者によると、コバは、アブラハムがケダラオメルの後衛を追つていつたホバ(創14¹⁵)、またはウベをさす。15⁵にも出る。15⁴の「コバイ」と同じかどうかは不明。

(8) ある学者はハゾル(ヨシュア11¹-10)、またはパアル・ハゾル(サムエル下13²³)とするが、現在のベテルの北東七キロにあるテル・エル・アズルとするほうが正しい。

(9) ヤコブの井戸の近く。サリム(ヨハネ3²³参照)の西、シケムの谷にあつたと思われる。

(10) ジェンニンの南十一キロのミチリアである。15⁴のベトマスタイルと同所。

(11) シナイ写本では「ベイトウリア」。バチカン写本では「ベイトウルア」。アレキサンドリア写本では「ベチュルア」。ベツリアは、この事件の中心地であるが、的確にはその所在は決めがたい。ある説ではエルサレムの北一〇キロ、ナザレの南三十キロの地点、ドタンの平野の丘陵にあるシェイク・エス・シベル(ジェンニンの西八キロのケフル・クドの近く)をさし、他の説では仮想の町とされている。

(12) この長老の団体は、ユダヤ人が幽囚の地から帰つた後に結成されたもので(マカバイ下11²)、後のサンヘ

ドリン（衆議会）である。

(13) 賞いの三方式として、荒衣と灰とひれ伏しが示されている。荒衣（ペビロニア語で「シャック」、ヘブライ語で「サク」、ギリシア語で「サッコス」、ラテン語で「サックス」）は、らくだややきの毛や荒布などで作られており、困難や苦しみ、または賞いのしるしとして着る。男も女も乳幼児も動物までも、この賞いの式に参加する（ヨナ³⁻⁸参照）。イスラエルの同居人と雇い人と奴隸も、苦しみのしるしとして荒衣をまとうようにさせられた（出¹²⁻⁴⁵20-10申²⁴⁻¹⁴参照）。また苦しみと賞いのしるしとして、頭に土または灰をかぶる習慣があった（ヨシュア⁷、サムエル上⁴⁻¹²、ネヘミヤ⁹⁻¹、エステル⁴⁻¹、マカバイ上³⁻⁴⁷参照）。祭壇を荒布でおおうのは、特に苦しみの深さを表すためである。教会はこれにちなんで、受難節中、紫色の布で祭壇の十字架や聖像をおおう。

(14) ブルガタ訳は4-15において、大司祭エリアキム（ヨアキム）が全ニダヤを巡り、人々にモーセがアマレクに勝ったのは、祈りによることを思い出させ（出¹⁷⁻⁹⁻¹³）、イスラエルを救う唯一の道は祈りと断食であると説いたことをしるしている。モーセの律法によれば、全イスラエル人の守るべき断食の日は、あがないの日だけであった（レビ¹⁶⁻²⁹とその注⁷参照）。しかし本章の場合のように、特別な困難や危険に際会した時は、神の慈悲を得るために、隨時、断食が行なわれた。

【注】(1) カナンの原住民に対する呼称。これは、往時をしのぶ場合（エズラ⁹⁻¹、ネヘミヤ⁹⁻⁸）、または詩の中で用いられた。

(2) 本書中に重要人物として現われるアキオルは、(6₂₀11₉₋₁₀14₅₋₁₀) その英知と雄弁から見て「トビット書」のアヒカル（トビート¹⁻²¹⁻²²）と同じ性格の人物と思われる。ブルガタ訳も、「トビット書」のアヒカルを本書のアキオルと同じくアキオルと呼んでいる。本章でアキオルは、イスラエルの民の歴史を、預言者的口調で簡略に述べる。

12 もも、神殿の前でひれ伏し、頭に灰をかぶり、主のみまえにその荒衣をひろげ、「また祭壇のまわりを荒衣でおおつた」。¹³ そして心を合わせて、イスラエルの神に向かい、かれらの子らがえじきとなり、その妻が奪い取られ、その受け継いだ町々が破壊され、聖所が汚され、侮辱され、異邦人の喜びとならないようになると、熱心に声をあげて祈った。

13 それで主はかれらの声を聞かれ、その苦しみをかえりみられた。人々は全ユダヤにおいて、またエルサレムにおいては全能の主の聖所の前で、数日にわたって断食した。¹⁴ 一大司祭ヨアキムと、主のみまえに立つすべての司祭と、主に仕える者とは、荒衣を腰にまとい、日々の全焼納祭のいけにえと、民の誓願の供え物ならびに任意の供え物とをさげた。かれらはターバンの上に灰をかぶり、せつに主に叫んで、イスラエルのすべての家を恩恵をもつてかえりみられるように祈った。

15 1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
5510
5511
5512
5513
5514
5515
5516
5517
5518
5519
5520
5521
5522
5523
5524
5525
5526
5527
5528
5529
5530
5531
5532
5533
5534
5535
5536
5537
5538
5539
5540
5541
5542
5543
5544
5545
5546
5547
5548
5549
55410
55411
55412
55413
55414
55415
55416
55417
55418
55419
55420
55421
55422
55423
55424
55425
55426
55427
55428
55429
55430
55431
55432
55433
55434
55435
55436
55437
55438
55439
55440
55441
55442
55443
55444
55445
55446
55447
55448
55449
55450
55451
55452
55453
55454
55455
55456
55457
55458
55459
55460
55461
55462
55463
55464
55465
55466
55467
55468
55469
55470
55471
55472
55473
55474
55475
55476
55477
55478
55479
55480
55481
55482
55483
55484
55485
55486
55487
55488
55489
55490
55491
55492
55493
55494
55495
55496
55497
55498
55499
554100
554101
554102
554103
554104
554105
554106
554107
554108
554109
554110
554111
554112
554113
554114
554115
554116
554117
554118
554119
554120
554121
554122
554123
554124
554125
554126
554127
554128
554129
554130
554131
554132
554133
554134
554135
554136
554137
554138
554139
554140
554141
554142
554143
554144
554145
554146
554147
554148
554149
554150
554151
554152
554153
554154
554155
554156
554157
554158
554159
554160
554161
554162
554163
554164
554165
554166
554167
554168
554169
554170
554171
554172
554173
554174
554175
554176
554177
554178
554179
554180
554181
554182
554183
554184
554185
554186
554187
554188
554189
554190
554191
554192
554193
554194
554195
554196
554197
554198
554199
554200
554201
554202
554203
554204
554205
554206
554207
554208
554209
554210
554211
554212
554213
554214
554215
554216
554217
554218
554219
554220
554221
554222
554223
554224
554225
554226
554227
554228
554229
554230
554231
554232
554233
554234
554235
554236
554237
554238
554239
554240
554241
554242
554243
554244
554245
554246
554247
554248
554249
554250
554251
554252
554253
554254
554255
554256
554257
554258
554259
554260
554261
554262
554263
554264
554265
554266
554267
554268
554269
554270
554271
554272
554273
554274
554275
554276
554277
554278
554279
554280
554281
554282
554283
554284
554285
554286
554287
554288
554289
554290
554291
554292
554293
554294
554295
554296
554297
554298
554299
554300
554301
554302
554303
554304
554305
554306
554307
554308
554309
554310
554311
554312
554313
554314
554315
554316
554317
554318
554319
554320
554321
554322
554323
554324
554325
554326
554327
554328
554329
554330
554331
554332
554333
554334
554335
554336
554337
554338
554339
5543310
5543311
5543312
5543313
5543314
5543315
5543316
5543317
5543318
5543319
5543320
5543321
5543322
5543323
5543324
5543325
5543326
5543327
5543328
5543329
5543330
5543331
5543332
5543333
5543334
5543335
5543336
5543337
5543338
5543339
55433310
55433311
55433312
55433313
55433314
55433315
55433316
55433317
55433318
55433319
55433320
55433321
55433322
55433323
55433324
55433325
55433326
55433327
55433328
55433329
55433330
55433331
55433332
55433333
55433334
55433335
55433336
55433337
55433338
55433339
55433340
55433341
55433342
55433343
55433344
55433345
55433346
55433347
55433348
55433349
55433350
55433351
55433352
55433353
55433354
55433355
55433356
55433357
55433358
55433359
55433360
55433361
55433362
55433363
55433364
55433365
55433366
55433367
55433368
55433369
55433370
55433371
55433372
55433373
55433374
55433375
55433376
55433377
55433378
55433379
55433380
55433381
55433382
55433383
55433384
55433385
55433386
55433387
55433388
55433389
55433390
55433391
55433392
55433393
55433394
55433395
55433396
55433397
55433398
55433399
554333100
554333101
554333102
554333103
554333104
554333105
554333106
554333107
554333108
554333109
554333110
554333111
554333112
554333113
554333114
554333115
554333116
554333117
554333118
554333119
554333120
554333121
554333122
554333123
554333124
554333125
554333126
554333127
554333128
554333129
554333130
554333131
554333132
554333133
554333134
554333135
554333136
554333137
554333138
554333139
554333140
554333141
554333142
554333143
554333144
554333145
554333146
554333147
554333148
554333149
554333150
554333151
554333152
554333153
554333154
554333155
554333156
554333157
554333158
554333159
554333160
554333161
554333162
554333163
554333164
554333165
554333166
554333167
554333168
554333169
554333170
554333171
554333172
554333173
554333174
554333175
554333176
554333177
554333178
554333179
554333180
554333181
554333182
554333183
554333184
554333185
554333186
554333187
554333188
554333189
554333190
554333191
554333192
554333193
554333194
554333195
554333196
554333197
554333198
554333199
554333200
554333201
554333202
554333203
554333204
554333205
554333206
554333207
554333208
554333209
554333210
554333211
554333212
554333213
554333214
554333215
554333216
554333217
554333218
554333219
554333220
554333221
554333222
554333223
554333224
554333225
554333226
554333227
554333228
554333229
554333230
554333231
554333232
554333233
554333234
554333235
554333236
554333237
554333238
554333239
554333240
554333241
554333242
554333243
554333244
554333245
554333246
554333247
554333248
554333249
554333250
554333251
554333252
554333253
554333254
554333255
554333256
554333257
554333258
554333259
554333260
554333261
554333262
554333263
554333264
554333265
554333266
554333267
554333268
554333269
554333270
554333271
554333272
554333273
554333274
554333275
554333276
554333277
554333278
554333279
554333280
554333281
554333282
554333283
554333284
554333285
554333286
554333287
554333288
554333289
554333290
554333291
554333292
554333293
554333294
554333295
554333296
554333297
554333298
554333299
554333300
554333301
554333302
554333303
554333304
554333305
554333306
554333307
554333308
554333309
554333310
554333311
554333312
554333313
554333314
554333315
554333316
554333317
554333318
554333319
554333320
554333321
554333322
554333323
554333324
554333325
554333326
554333327
554333328
554333329
554333330
554333331
554333332
554333333
554333334
554333335
554333336
554333337
554333338
554333339
554333340
554333341
554333342
554333343
554333344
554333345
554333346
554333347
554333348
554333349
554333350
554333351
554333352
554333353
554333354
554333355
554333356
554333357
554333358
554333359
554333360
554333361
554333362
554333363
554333364
554333365
554333366
554333367
554333368
554333369
554333370
554333371
554333372
554333373
554333374
554333375
554333376
554333377
554333378
554333379
554333380
554333381
554333382
554333383
554333384
554333385
55433338

エブス人、シケム人とすべてのギルガシ人を追い散らし、多年、そこに住みました。⁽⁹⁾
 かれらは神に対し罪を犯さない間は栄えました。不義を憎む神が、かれらとともにおられるからです。しかし神の定めた道を離れた時、かれらは多くの戦いで完全に敗北し、捕虜として他国に連れ行かれ、神の宮は地に倒され、町々は敵に奪われました。⁽¹⁰⁾ しかし今や、かれらは神に立ちもどり、離散の地から帰り、聖所のあるエルサレムを取りも

(3) ハラン地方をさす（創11³¹）。古代のハランの地名は、現在、エスキ・ハランとして残っている。この町はエデッサ（現在のウルフア）の南東約二十三キロの地点にある。

(4) イスマエルの最初の歴史、すなわちアブラハムがカルデヤのウルからハランに移住したこと（創11²⁸—31¹²⁵）。

(5) ベルシア的表現（エズラ5¹²6⁹）。

(6) エジプト全土をおそった災害は、しばしば詩書や教訓書に見られる（イザヤ10²⁴—26、詩78「77」⁴²—51¹⁰⁵〔104〕²⁷—36、シラ45³、知11⁵—16—18章）。

(7) ギリシア語訳は紅海における奇跡について簡単に述べているが、ブルガタ訳は「節以下において、次のとおり詳しくしている。「かれらが逃げる時、天の神は海を開き、水は左右に石がきのように固くなつたので、かれらは足をぬらずに海底歩いて渡つた。やがてエジプトの無数の軍勢がかれらを追つてきたが、そこで水におおわれ、その出来事を子孫に語り伝えるために生き残つた者はひとりもいなかつた」。

(8) イスマエルの民はモアブの草原からヨルダンに到着し、これを横切り（ヨシュア3—4章）、ヨシュアの指揮のもとに山地を占領した。

(9) ここに列挙されている異民族の数は歴史書と符合している（出33²34¹¹、申7¹、ヨシュア9¹、エズラ9¹、ネヘミヤ9⁹）。

しもべのことばをお聞きください。わたしは、あなたの近くにあるこの山地に住むこの民の実情を申しあげます。あなたのしもべの口は、一言の偽りも申しません。この民はカルデヤ人の子孫で、初めメソポタミアに住みました。⁽³⁾ かれらはカルデヤの地にいた先祖の神々に従うことを欲しなかつたからです。かれらは先祖の道を捨て、天の神、すなわちかれらがみとめた神を礼拝しました。それで神々の面前から追い出されたので、メソポタミアにのがれ、久しい間、そこに住みました。しかし神がかれらに、その住む地を離れ、カナンの地に行くことを命じられたので、かれらはそこに定住し、金と銀と多くの家畜とを豊かに得ました。ついできんがカナン全土をおそったので、かれらはエジプトにくだり、食糧が得られる間、そこにとどまりました。やがてかれらは大集団となり、その民は数えきれないほどになりました。エジプトの王は、かれらに対して立ち、かれらを巧みに利用し、れんが造りをさせ、卑しめて奴隸としました。かれらがその神に叫ぶと、神はエジプト全土を不治の疫病⁽⁶⁾で苦しめました。それでエジプト人は、自分らの前からかれらを追い出しました。神はかれらの行く手の紅海をからし、かれらをシナイとカデシ・バルネアへの道に連れ行き、さばくに住む人々を追い出しました。そしてかれらはアモリ人の地に住み、力ずくでヘシボン人を滅ぼし、ヨルダンを横切り、すべての山地を領有しました。かれらはカナン人、ペリジ人、

どし、住む人のない山地に再び定住しました。一さて主なる殿、もしこの民にあやまちがあり、かれらが、その神に対し罪を犯し、そしてわたしたちがその罪をかれらのうちに見いだすならば、わたしたちは登って行き、かれらを打ち破ることができます。一しかしもしその民に不義がないならば、主よ、通り過ぎてください。おそらく主はかれらを守り、神はかれらに味方し、わたしたちは全地の前で笑いものになるでしょう」。

アキオルが、これらのこと語り終わつた時、天幕の周囲に立つていたすべての人々の間に、つぶやきがおこり、ホロフエルネスの高官たち、また沿海とモアブの全住民は、かれを死にわたせと主張した。一かれらは言つた、「わたしたちはイスラエルの子らを少しも恐れません。この民は激しい攻撃を防ぐ戦力もなく、戦う能力もない民です。一主ホロフエルネス、さあ、上りましよう。かれらはあなたの全軍に食いつくされるえじきです」。

6

ホロフェルネス、司令官ホロフェルネスは、すべての他国民を前にして、アキオルとアキオルの勧めをことわるすべてのアンモンの子らとに向かって言った、「アキオルよ、おまえとアンモンの雇い人どもは、いったい何者か。神がかれらを守

司令官ホロフエルネスは、すべての他国民を前にして、アキオルとすべてのアンモンの子らとに向かつて言つた、「アキオルよ、おまえとアンモン^{*}の雇い人どもは、いったい何者か。神がかれらを守るから、イスラエルの民と戦つてはならないと、きょうわれわれに

預言したおまえは何者か。ネブカドネザルのほかにだれが神であるというのか。かれはその軍隊をつかわして、地のおもてからかれらを全滅し、かれらの神はかれらを救うことはできないであろう。一王のしもべであるわれわれは、かれらをただひとりの人間を滅ぼすように滅ぼす。かれらはわれわれの馬の力をささえることができない。一われわれはかれらを焼きつくす。山々はその血に酔い、平野は死体に満たされるであろう。かれらはわれわれの前に立ち向かうことができず、全滅されるであろうと、全地の主であるネブカドネザル王は言う。かれはそう言った。かれの語ったことはむなしくならぬい。⁽²⁾

おまえの不義に満ちた日、これらの事を語つたアンモンの雇い人アキオルよ、おまえ

申5⁹—10 参照。
いうこの原則をブルガタ訳は少なくとも三回くり返す（5¹⁶以下、18^{以下}、21^{以下}）。なお詩5⁵以下、ハバクク1¹³、

(11) イスラエル人攻撃のこの戦略はホロフエルネスにとっては一つの大きなジレンマである。かれは進軍すべきか否かを決定できない。歴史的、軍略的知識に基づいているかのようなこのアキオルの提案は、実は神学的課題を含んでいる。すなわち、(1) イスラエルの神または天の神は眞実な神であること^(8-21節)、(2) 神はイスラエルの民の運命を決定すること^(9-12-14節以下)、(3) 神の摂理は正義に基づいていること^(17-18-20-21節)である。

【注】(1) ホロフエルネスにとつては、アキオルの預言はむだである。かれによると、ネブカドネザルだけが唯一の主にこう申べらるつて、可へるこころに反対できまい。

(2) 25-13 参照。

19 「主なる神よ、かれらの高慢をごらんください。われわれの民が受けたはずかしめを
あわれみ、この日、あなたに聖別された人々に目を注いでください」。

20 それでかれらはアキオルを慰め、大いにかれをたたえた。²¹ オジアはかれを会議場か
た。

15 かれを連れて行き、その町の指導者たちの前に立たせた。一当時の指導者たちはシメオ
ン族で、ミカの子オジア、ゴトニエルの子カブリ、メルキエルの子カルミであった。

16 かれらは町のすべての長老たちを招集した。すべての青年も女たちも、急いでその会議
に集まつた。オジアは人々の中に立つてアキオルに、何事が起つたかと尋ねた。

17 それでかれは答えて、ホロフェルネスの会議の内容と、かれがアッシャリアの子らの指導
者たちの中で言つたことと、ホロフェルネスが、イスラエルの家に対して高ぶつて言つ
たことを告げた。そこで人々はひれ伏して神を拝し、声をあげて次のように祈つ
た。

(3) ホロフェルネスはアキオルの長い話の中から、ただイスラエル人のエジプト脱出のことだけを取りあげ
て、かれらを軽べつする(5¹²)。

(4) ブルガタ訳(9節)は、もっと詳しく「かれらは山腹を離れ、アキオルの手足を木にしばりつけ、かれを
なわでしばつたまま残し置き、その主君のもとに帰つた」としている。

(5) シメオン族の太祖シメオンは、罪を犯してヤコブにとがめられたが(創34³⁰49⁵—参照)、その子孫ユディ
トによつて(9²⁴)名誉を回復する。

6 びわたしの顔を見ないであろう。⁽³⁾ その時、わたしの軍隊の剣と臣下のやりが、おまえ
のわき腹をつらぬき、わたしがそこへ進軍する時、おまえはそれらの負傷者の間に倒れ
るであろう。一今、わたしのしもべたちは、おまえを山地に連れて行き、その峠の近く
の町の一つに、おまえを捨ておき、そしておまえは、かれらとともに滅びるその日ま
では死ないであろう。もしおまえが心の中に、かれらが捕えられることはないとい
う望みをいだいているなら、どうしておまえは顔を伏せるのか。わたしはすでに言つ
た、わたしの言つたことばは、一つとしてむなしくはならない」。

7 そこでホロフェルネスは、天幕に仕えるしもべたちにアキオルを、
8 捕えさせ、ベツリアに連れて行き、イスラエルの子らの手に渡すよ
9 うに命じた。しもべたちはかれを捕え、陣地から平野に連れ出し、
10 渡される 平野から山地に登り、ベツリアの下の水源のところにきた。町の
11 人々はかれらを見つけると、武器を取つて町から出て、山の頂に登
12 り、石投げの人々はみな、石を投げてかれらが登るのを防いだ。しかしがれらは丘の
13 下に忍びより、アキオルをしばり、山のふもとに置きざりにし、主君のもとに帰つた。
14 それでイスラエルの子らは町から下り、アキオルに近づき、なわを解き、ベツリアに
15 16 17 18 19 20

ら自分の家に案内し、長老たちのために宴会を開いた。そしてその夜は夜もすがら、イスラエルの神に助けを祈った。

7-1

ホロフェルネス の人々に、陣地をたたんで、ベツリアに向かい、山地の峠を占領の包囲作戦

千、他に軍需品と、かれらに続く徒步の者の数は、実におびただしいものであった。
かれらはベツリアに近い谷の泉のかたわらに陣を張った。その戦線の広さはドタンからベルバイム⁽²⁾にいたり、その長さはベツリアからエスドレロンに面するキアモン⁽³⁾にまで及んだ。この大群を見たイスラエルの子らは、ひどく憂え、互いに言つた、「これらの人々は全地のおもてをなめつくし、高い山も、谷も丘も、その重みに耐えられまい」。
そしてかれらは、おのれの自分たちの武器を取り、塔の上にかがり火をたき、その夜は夜もすがら守備についていた。

二日目に、ホロフェルネスは、そのすべての騎兵をベツリアにいるイスラエルの子らの前で行進させ、一町への登り道を偵察し、水源を見つけ、これを奪い、番兵をおき、そして本陣にもどつた。

8
9 その時、エサウの子らのすべての領主、モアブ人のすべての指揮官、沿海地方の隊長たちはかれを出迎えて言つた、「どうか、われわれの殿よ、次のことを聞き入れてください。そうすれば軍隊は何の損傷も受けないでしよう。」イスラエルの子らであるこの民は、やりにより頼まず、その住む山々の高いことによつています。その山の頂に達することは容易ではないからです。⁽²⁾ それで、殿よ、あなたの民をひとりも失わないために、攻撃戦法をもつて戦つてはなりません。」陣営にとどまり、全軍の者を留めおき、しもべどもに、山のふもとにわき出ている泉を確保させてください。」ベツリアの住民はみな、そこから水を得ていますから、やがてかれらはかわきのために死に、町を明け

【注】(1) ブルガタ訳では歩兵十二万、騎兵二万二千。

(2) 4注⁶参照。

(3) キアモン(ブルガタ訳では「ケルモン」)は、おそらくドタンの北八キロ、ベルマイムの北西八キロのヤムンをさしているものと思われる。

(4) この東洋的表現は、家畜が草をくいくことにたとえたものである(民²²参照)。本節をブルガタ訳は「イスラエルの子らは、かれらの大軍を見て、地に伏し、頭に灰をかぶり、心を一つにして、イスラエルの神が、その民にあわれみを示されるように祈つた」としてゐる。

(5) 敵に恐怖を与え、かつ不意打ちを防ぐためであった(マカバイ上¹²²⁸²⁹参照)。

(6) パレスチナの南東の地方に住むエドム人をさす古代の表現。ブルガタ訳では「モアブとアンモンの子ら」。

(7) ユダヤは山岳地帯で、そこに住む人々は「山の民」といわれ、かれらの神ヤーウェは「山の神」と呼ばれている(創¹⁷注²参照)。ユダヤ人はこの山の神の力で山岳戦には絶対に敗北しない(列上²⁰²⁸参照)。

したため、ベツリアの全住民の水がめはからとなり、²¹雨水だめはかれはじめ、飲む量
がきめられたので、じゅうぶんに水を飲むことのできる日は一日もなかつた。²²幼い子
らは氣力を失い、女も若者もかわきにあえぎ、町の道や、門の通路に倒れ、かれらには
もはや何の力もなかつた。²³

その時、すべての人々、若者も女も子どももみな、オジアと町の指導者たちのところ
に集まり、大声で叫び、すべての長老たちに向かつて言つた、²⁴「神があなたがたとわ
れわれとの間をさばかれるように。あなたがたは、アッシリアの子らと平和を結ばず、²⁵
われわれに大きな災いを与えたからです。今、われわれを救う者はひとりもいない。神
はかれらの手にわれわれを売り渡し、かわきと滅びとで、かれらの前にわれわれをこと
ごとく地に打ち倒すでしょう。今、かれらを呼び入れ、全市を戦利品としてホロフエ
ルネスの民とその全軍に渡しなさい。²⁶かわきで死ぬよりも捕虜となるほうが、われわ
れにとつてはましです。奴隸となつても、命をながらえることができるし、目のあたり

(8) ブルガタ訳^{(10)節}では、山岳隊の国名を示さないで、「かれは泉の周囲にそれぞれ百人ずつ配置した」とある。

(9) これらの地名は本書だけにあらわれる。この地方を流れているモクムルの流れは、地中海に注ぐワディ・エル・アマル、またクスはナブルスの南約九キロのクーザ、それからエグレベルはナブルスの南十四キロのアクラベをさすものと思われる。

渡すでしよう。われわれは民とともに近くの山の頂に登り、そこに陣営をしき、かれら
がひとりも町から出ないよう見張りをします。¹⁴かれらはその妻も子もともに飢えに
やつれ、剣がかれらに臨む前に、その住む道の上に倒れ伏すでしょう。¹⁵こうしてな
たはかれらがあなたにそむき、あなたを平和のうちに迎えなかつた罰として、悪をもつ
てかれらに報いることができるでしよう」。¹⁶

のことばはホロフエルネスとすべての臣下の氣に入り、その進言のとおりに命令を
くだした。¹⁷それでモアブの子らの陣営は、五千のアッシリアの子らとともに移動し、¹⁸
谷間に陣を張り、イスラエルの子らの放水路とその水源とを占領した。¹⁹ついでエサウ
の子らとアンモンの子らは、一万二千のアッシリア人とともに登り行き、ドタンの向か
いの山地に陣を張つた。そのうちのある者は、モクムルの流れに臨むクスの近くのエグ
レベルに向かつて、南と東のほうにつかわされた。²⁰アッシリアの軍のその他の者は、平
野に陣取り、そのすべての地をおおい、天幕と補給品はおびただしくひろがり、かぞえ
きれぬほどの数となつた。²¹

ベツリアの子ら

イスラエルの子らは、かれらのすべての敵に包囲され、全く逃げ

水の欠乏に悩む

場がなく、氣力を失つたので、主なる神に叫んだ。²²歩兵、いくさ
車、騎兵、すなわち全アッシリア軍が、三十四日間、かれらを包囲

がひとりも町から出ないよう見張りをします。¹⁴かれらはその妻も子もともに飢えに
やつれ、剣がかれらに臨む前に、その住む道の上に倒れ伏すでしょう。¹⁵こうしてな
たはかれらがあなたにそむき、あなたを平和のうちに迎えなかつた罰として、悪をもつ
てかれらに報いることができるでしよう」。¹⁶

(10) このような連帶責任觀はイスラエルの伝統的信仰であった（哀5:7参照）。

(11) すなわち「町を明け渡しなさい」の意。ほとんどのギリシア語写本には、この句は「かれ（神または人）はわたしたちが言つたとおりにしないように」と消極的語法で書かれている。これは、ヘブライ語の誓いの形式が消極的語法で書かれても、積極的な意味を持つということを解さず、ヘブライ語の消極的語法をそのまま訳したものである。本訳は旧ラテン語訳とブルガタ訳（12節）にならって、「わたしたちが言つたとおりにしなさい」と積極的語法で訳したもの。

(12) ブルガタ訳は19節から21節までにおいて、人々の悲しみと祈りの美しいことは付け加えている。「わたしたちは先祖とともに罪を犯し、不正を行ない、不義をなした。あなたは慈悲深い御かたです。わたしたちをあわれんでください。またはわたしたちの不義をむちで懲らしめてください。しかしあなたをたたえるものを、あなたを知らない民に渡さないでください。異邦人の間で『かれらの神はいつたいどこにいるのか』と言われないためです。」

【注】(1) 「ユディト」とは「ユダヤの女」の意。彼女は典型的なイスラエルの女である。その血統はヤコブの十二人の子のひとりシメオンから出ている。サラサダイ（＝ツリシャダイ）の子サラミエル（＝シルミエル）は、イスラエルの民がエジプトを脱出した時、シメオン族の首長であった（民1:6 2:12 7:36）。ブルガタ訳は本節で「ルベンの子、シメオン」を付け加えているが、ルベンの名は正しくない。なお、その他の人名についてもギリシア語訳、ブルガタ訳、シリア語訳は、一致していない。

8
1
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
730
731
732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
8010
8011
8012
8013
8014
8015
8016
8017
8018
8019
8020
8021
8022
8023
8024
8025
8026
8027
8028
8029
8030
8031
8032
8033
8034
8035
8036
8037
8038
8039
8040
8041
8042
8043
8044
8045
8046
8047
8048
8049
8050
8051
8052
8053
8054
8055
8056
8057
8058
8059
8060
8061
8062
8063
8064
8065
8066
8067
8068
8069
8070
8071
8072
8073
8074
8075
8076
8077
8078
8079
8080
8081
8082
8083
8084
8085
8086
8087
8088
8089
8090
8091
8092
8093
8094
8095
8096
8097
8098
8099
80100
80101
80102
80103
80104
80105
80106
80107
80108
80109
80110
80111
80112
80113
80114
80115
80116
80117
80118
80119
80120
80121
80122
80123
80124
80125
80126
80127
80128
80129
80130
80131
80132
80133
80134
80135
80136
80137
80138
80139
80140
80141
80142
80143
80144
80145
80146
80147
80148
80149
80150
80151
80152
80153
80154
80155
80156
80157
80158
80159
80160
80161
80162
80163
80164
80165
80166
80167
80168
80169
80170
80171
80172
80173
80174
80175
80176
80177
80178
80179
80180
80181
80182
80183
80184
80185
80186
80187
80188
80189
80190
80191
80192
80193
80194
80195
80196
80197
80198
80199
80200
80201
80202
80203
80204
80205
80206
80207
80208
80209
80210
80211
80212
80213
80214
80215
80216
80217
80218
80219
80220
80221
80222
80223
80224
80225
80226
80227
80228
80229
80230
80231
80232
80233
80234
80235
80236
80237
80238
80239
80240
80241
80242
80243
80244
80245
80246
80247
80248
80249
80250
80251
80252
80253
80254
80255
80256
80257
80258
80259
80260
80261
80262
80263
80264
80265
80266
80267
80268
80269
80270
80271
80272
80273
80274
80275
80276
80277
80278
80279
80280
80281
80282
80283
80284
80285
80286
80287
80288
80289
80290
80291
80292
80293
80294
80295
80296
80297
80298
80299
80300
80301
80302
80303
80304
80305
80306
80307
80308
80309
80310
80311
80312
80313
80314
80315
80316
80317
80318
80319
80320
80321
80322
80323
80324
80325
80326
80327
80328
80329
80330
80331
80332
80333
80334
80335
80336
80337
80338
80339
80340
80341
80342
80343
80344
80345
80346
80347
80348
80349
80350
80351
80352
80353
80354
80355
80356
80357
80358
80359
80360
80361
80362
80363
80364
80365
80366
80367
80368
80369
80370
80371
80372
80373
80374
80375
80376
80377
80378
80379
80380
80381
80382
80383
80384
80385
80386
80387
80388
80389
80390
80391
80392
80393
80394
80395
80396
80397
80398
80399
80400
80401
80402
80403
80404
80405
80406
80407
80408
80409
80410
80411
80412
80413
80414
80415
80416
80417
80418
80419
80420
80421
80422
80423
80424
80425
80426
80427
80428
80429
80430
80431
80432
80433
80434
80435
80436
80437
80438
80439
80440
80441
80442
80443
80444
80445
80446
80447
80448
80449
80450
80451
80452
80453
80454
80455
80456
80457
80458
80459
80460
80461
80462
80463
80464
80465
80466
80467
80468
80469
80470
80471
80472
80473
80474
80475
80476
80477
80478
80479
80480
80481
80482
80483
80484
80485
80486
80487
80488
80489
80490
80491
80492
80493
80494
80495
80496
80497
80498
80499
80500
80501
80502
80503
80504
80505
80506
80507
80508
80509
80510
80511
80512
80513
80514
80515
80516
80517
80518
80519
80520
80521
80522
80523
80524
80525
80526
80527
80528
80529
80530
80531
80532
80533
80534
80535
80536
80537
80538
80539
80540
80541
80542
80543
80544
80545
80546
80547
80548
80549
80550
80551
80552
80553
80554
80555
80556
80557
80558
80559
80560
80561
80562
80563
80564
80565
80566
80567
80568
80569
80570
80571
80572
80573
80574
80575
80576
80577
80578
80579
80580
80581
80582
80583
80584
80585
80586
80587
80588
80589
80590
80591
80592
80593
80594
80595
80596
80597
80598
80599
80600
80601
80602
80603
80604
80605
80606
80607
80608
80609
80610
80611
80612
80613
80614
80615
80616
80617
80618
80619
80620
80621
80622
80623
80624
80625
80626
80627
80628
80629
80630
80631
80632
80633
80634
80635
80636
80637
80638
80639
80640
80641
80642
80643
80644
80645
80646
80647
80648
80649
80650
80651
80652
80653
80654
80655
80656
80657
80658
80659
80660
80661
80662
80663
80664
80665
80666
80667
80668
80669
80670
80671
80672
80673
80674
80675
80676
80677
80678
80679
80680
80681
80682
80683
80684
80685
80686
80687
80688
80689
80690
80691
80692
80693
80694
80695
80696
80697
80698
80699
80700
80701
80702
80703
80704
80705
80706
80707
80708
80709
80710
80711
80712
80713
80714
80715
80716
80717
80718
80719
80720
80721
80722
80723
80724
80725
80726
80727
80728
80729
80730
80731
80732
80733
80734
80735
80736
80737
80738
80739
80740
80741
80742
80743
80744
80745
80746
80747
80748
80749
80750
80751
80752
80753
80754
80755
80756
80757
80758
80759
80760
80761
80762
80763
80764
80765
80766
80767
80768
80769
80770
80771
80772
80773
80774
80775
80776
80777
80778
80779
80780
80781
80782
80783
80784
80785
80786
80787
80788
80789
80790
80791
80792
80793
80794
80795
80796
80797
80798
80799
80800
80801
80802
80803
80804
80805
80806
80807
80808
80809
80810
80811
80812
80813
80814
80815
80816
80817
80818
80819
80820
80821
80822
80823
80824
80825
80826
80827
80828
80829
80830
80831
80832
80833
80834
80835
80836
80837
80838
80839
80840
80841
80842
80843
80844
80845
80846
80847
80848
80849
80850
80851
80852
80853
80854
80855
80856
80857
80858
80859
80860
80861
80862
80863
80864
80865
80866
80867
80868
80869
80870
80871
80872
80873
80874
80875
80876
80877
80878
80879
80880
80881
80882
80883
80884
80885
80886
80887
80888
80889
80890
80891
80892
80893
80894
80895
80896
80897
80898
80899
80900
80901
80902
80903
80904
80905
80906
80907
80908
80909
80910
80911
80912
80913
80914
80915
80916
80917
80918
80919
80920
80921
80922
80923
80924
80925
80926
80927
80928
80929
80930
80931
80932
80933
80934
80935
80936
80937
80938
80939
80940
80941
80942
80943
80944
80945
80946
80947
80948
80949
80950
80951
80952
80953
80954
80955
80956
80957
80958
80959
80

約束したことは、正しくありません。さて、あなたがたは、いたい何者ですか。
12 よう神を試み、人の子らのなかで神の上に立とうとするあなたがたは。
13 今あなたがたは、全能の主をためしていますが、決して何事も知ることができません。
14 あなたがたは人の心の深さを測ることも、また人の思いさえも知ることができないの
に、どうして万物を造られた神をさぐり、その思いを知り、その計らいを悟ることがで
きましょうか。兄弟たちよ、わたしたちの主なる神を怒らせるようなことは決してして
はなりません。一たとえ主はこの五日以内にわたしたちを助けることをお望みにならな
くとも、お望みになる日にはいつでもわたしたちを守り、また敵の前でわたしたちを滅
ぼす力を持っておられます。⁽⁷⁾ 一それであなたがたは主なる神のご計画を束縛してはなり

(2) パレスチナでは普通、五月下旬から六月上旬ごろに大麦の刈り入れをする。「暑さのため頭をおかされる」とは、日射病にかかることを意味し、時には死ぬこともある（列下4:10～11参照）。

(3) おそらくベルマイン。4注⁶参照。

(4) 夫の喪はたいてい七日間（創50:1参照）であったが、彼女はやもめの服を一生着ることを決心し、すでに三年四ヶ月経過していた。

(5) 屋上または高殿のへやは、普通、客間として用いられた（士8:23～25、列下4:10参照）。ユーディトは世間を離れて、神に自分の生命をささげて犠牲的な生活をするためにこの場所を用いる。

(6) 神にささげられた祝日に痛悔と苦業をなすことは、宗教的感情に反する（ネヘミヤ8:9～12）。

(7) 神は常に完全な自由をもつてイスラエルの歴史に介在する。人々は神の助けを求める事ができるが、神を強制することはできない。希望と忍耐とをもって神の摂理を待つべきである。

8,4
ユディト書 122
る時、暑さのため頭をおかされて床につき、その町ベツリアで死んだ。そしてドタンと
4 バラモン⁽³⁾の間の野に、その先祖とともに葬られた。ユディトは三年四か月の間、やも
5 めとして家にとどまり、自分のために家の屋上⁽⁵⁾に天幕を張り、腰に荒衣を帶び、喪服
6 をつけていた。また彼女はそのやもめ生活において、安息日とその前日、新月祭とそ
7 の前日、およびイスラエルの家の祭日と祝日のほかは毎日断食をした。彼女はひじょう
8 に美しく、みめうるわしかった。夫マナセは金銀や下男下女、家畜と土地とを彼女にの
こしたので、彼女はそれらのものを守り続けた。彼女は深く神を恐れていたので、彼
9 女をそしる者はひとりもいなかつた。

ユディトは、人々が水不足に落胆して首長に不平を言つたことを
ユディトの抗議 聞いた。またオジアが人々に答えたすべてのことと、かれが五日後
10 に、アッシリア人に町を明け渡すことをどのように誓つたかを聞い
た。それで彼女はその全財産を管理している侍女をつかわして、町の長老オジア^{*}とカ
11 ブリとカルミとを招いた。彼女はかれらが自分のもとに来た時、かれらに言った、「わ
たしの言うことをお聞きください。ベツリアの住民の指導者たちよ、あなたがたが、き
よう人々に語つたこと、すなわち、神とあなたがたとの間に誓いを立て、所定の日のう
ちに、主があなたがたを助けてくださらぬならば、この町を敵に明け渡そうと言つ

兄弟たちよ、今こそ、わたしたちの兄弟に模範を示しましよう。かれらの命はわたしたちにかかるており、聖所も祭壇も、わたしたちにゆだねられているからです。²⁴ すべてにまして、わたしたちの主なる神に感謝をささげましょう。神は先祖になされたように、わたしたちを試みておられるのです。²⁵ 神がアブラハムになされたこと、イサクを試みられたこと、またシリアのメソポタミアで、ヤコブがその母の兄ラバンの羊を飼つている時に起こったことを思い起こしなさい。²⁶ 神がかれらを試みられたのは、かれらの心を探るためでした。これはわたしたちに対しても同じことで、主がみもとに近づく者をむち打たれるのは、わたしたちを罰するためではなく、教えさとすためです」。

(8) ¹⁸節から²⁰節までは、アキオルがホロフエルネスに告げた提案（⁵～²¹）と一致しており、それはまたユディトによって繰り返される（¹¹）。ユディトは神に信頼することが、勝利の原因となることを述べ。すなわち預言者たちから強く警告された偶像崇拜が、現在、民の間で見られず、一神教がきわめて純粹に守られていることを考えて、民の安全について確信をいだいている。

(9) 幽囚以前のイスラエル人にとっては神殿と神の守護とは同じことで、神殿があるかぎり、国は滅びないと考えられていた（エレミヤ⁷～¹²、¹⁵参照）。しかしこの思想はもはや本書には見られない。

(10) 創²²～¹⁹、²⁶～³³、²⁹～³¹参照。ブルガタ訳は²¹節から²⁷節まで、さらに長くこのことを述べ、三人の太祖のほかにモーセも加えている。またエジプト脱出時代のモーセの反対者についても述べ（民¹¹～¹⁴、²⁰～²¹、⁴～⁹、ヨルント¹⁰～¹⁰参照）、かれらは、「滅ぼす者に滅ぼされ、へびによつて殺された」（²⁵節）である。

(11) 神がその愛する者に苦難を与えるのは、罰のためでなく、かれらを聖化し、また心を清めるためである、という考えは教訓書に共通した思想であり、またキリスト教的な思想でもある（格³～¹²、知³～⁶、¹¹～¹⁰、シラ²

ません。わたしたちの主なる神は人間のようにおびやかされることはありません。また人間の子のように強制されることもありません。「それでわたしたちはその救いを待ち望み、わたしたちを助けてくださるように、主に求めましょう。もし心ならば、わたしたちの声を聞いてくださるでしょう。

¹⁸ 實際、昔行なわれたように、手で造った神々を拝するものは、わたしたちの世代にはひとりもいません。また今日、そのようなことをする部族や家族や郡部や町はわたしたちのなかにはありません。「わたしたちの先祖たちは、このために剣に渡され、略奪され、敵の前で大敗を喫しました。」しかしわたしたちは、主のほかに他の神を知りません。それでわたしたちは主がわたしたちを、またわたしたちの民のひとりも軽んじられないことを望みます。¹⁹ 「もしわたしたちの所が占領されるならば、ユダヤ全国も占領され、わたしたちの聖所は奪われ、そしてその冒とくのゆえに主はわたしたちの血を求められるでしょう。」またわたしたちが奴隸となつて異邦人の間にいても、神は兄弟たちの殺害、領土の占領、遺産の荒廃、これらすべてをわたしたちの頭上に下すでしょう。²⁰ そしてわたしたちは買ひ主の面前で、つまづきとなり、あざけりとなるでしょう。わたしたちの奴隸生活は恵みをもたらさず、かえつてわたしたちの主なる神は、これを不名誉に変えられるでしょう。

9

1

たを導き、敵に復しゅうを与えられますように」。—それからかれらは天幕から出て、おののの部署にもどつた。

ユディトの祈り

ユディトは地にひれ伏し、頭に灰をかぶり、身につけていた荒衣を脱いで、下に着ていた荒衣をあらわしたと解するほうが正しい。

(1) 著者は、好んでベツリアのことと、ヤーウェに対する礼拝の中心であるエルサレムのこととを思い合わせる(4²—3⁶—8²¹)。律法によれば、エルサレムの神殿においては毎日、朝と夕の二回、香をささげなければならないことになっている(出30⁷—8、詩141¹—2参照)。本節は夕の献香について述べている。

「父シメオン(4)の主なる神よ、

^{3—5}、ヘブライ12⁵—11、默3¹⁹参照。

【注】(1) ギリシア語本は、一見、ユディトが荒衣を脱いだように読まれがちであるが、10³と照合して、むしろ上

着を脱いで、下に着ていた荒衣をあらわしたと解するほうが正しい。

(2) 著者は、好んでベツリアのことと、ヤーウェに対する礼拝の中心であるエルサレムのこととを思い合わせる(4²—3⁶—8²¹)。律法によれば、エルサレムの神殿においては毎日、朝と夕の二回、香をささげなければならないことになっている(出30⁷—8、詩141¹—2参照)。本節は夕の献香について述べている。

(3) ユディトは先祖の神に向かつて勇氣と力を求めるが、その祈りは、エステルの祈り(エスティル4¹⁷—17²(3)—19)と非常に似ている。それは四つの部分に分かれている。(1) 2—4節。ヤコブの娘デイナを犯したシケムに対する先祖シメオンの復しゅう(創34章)の追憶。(2) 5—6節。すべては神のみ旨のままに行なわれること。(3) 7—10節。高慢なアッシリア人は兵力にのみ頼るが、神は女の手でかれらを滅ぼす。(4) 11—14節。多くの聖書的繰り返しをもつて彼女は神に民の解放を願う。

(4) ヤコブはシメオンとレビがシケム人を殺したこと戒めた(創34³⁰—49⁵—6参照)が、ユディトはそれを他の立場から賞賛している。

32

33

そこでユディトはかれらに言った、「お聞きください。わたしはユディトの計画一つの事を実行します。それはわたしたちの民の子らに後の世までも語り伝えられるでしょう。—今晚、あなたがたは門の所に立つていてください。わたしは侍女とともに出て行きます。あなたがたが敵に町を明け渡そうと約束したその日限のうちに、主はわたしの手をもつて、イスラエルをかえりみてくださるでしょう。—しかしあたしが行なうことを探ろうとしないでください。わたしはこの事を成し遂げるまでは、それを申しあげません」。

オジアと指導者たちは彼女に言った、「平安のうちに行きなさい。主なる神が、あなた

は、きょうが初めてではありません。すべての人々はあなたが幼いころから賢明であることを知っています。あなたの心根がよいからです。

しかし人々はひじょうにかわきをおぼえ、しいてわたしたちにあのような約束をさせ、また、破ることのできない誓いを立てさせました。—さて、あなたは信心深い婦人ですから、主が雨を降らして、水だめを満たし、わたしたちがこれ以上弱らないよう

に、わたしたちのために祈ってください。

そこでユディトはかれらに言った、「お聞きください。わたしは

ユディトの計画一つの事を実行します。それはわたしたちの民の子らに後の世までも語り伝えられるでしょう。—今晚、あなたがたは門の所に立つていてください。わたしは侍女とともに出て行きます。あなたがたが敵に町を明け渡そう

と約束したその日限のうちに、主はわたしの手をもつて、イスラエルをかえりみてくださるでしょう。—しかしあたしが行なうことを探ろうとしないでください。わたしはこの事を成し遂げるまでは、それを申しあげません」。

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

オジアは彼女に言った、「あなたの言ったことは、すべて清い心から出ています。あなたのことばに対してだれひとりさからう者もいません。—あなたの知恵が示されたのは、きょうが初めてではありません。すべての人々はあなたが幼いころから賢明であることを知っています。あなたの心根がよいからです。

6

5

あなたはかれの手に剣をお与えになりました。
 それは処女の帶^{*}を解いて犯し、
 そのももをあらわにしてはずかしめ、
 胎を汚して恥を与えた異邦人に対し、
 あだを報ずるためでした。

(5) 本節の意味は明確でない。しかしこれが同罪刑法的復しゆうであることは明らかである。シケム人がディナに対する陵辱の報いとして減ばされたのは、かれらが割礼のため寝床に休んでいた時である(創34章24-25参照)。

(6) 本節は神の企てならびにさばきを擬人法的に表現している(バルク3章35参照)。何事でも天地万物ばかりでなく歴史的事実も神のさしつによってなされる。

4

3

あなたはかれの手に剣をお与えになりました。

あなたが『そうしてはならない』と言われたのに、
 かれらはそのことをしたからです。

それであなたはその指導者たちを死にわたしし、
 その偽りに汚された寝床を血に染め⁽⁵⁾、
 奴隸を君主もろともに、

君主らをその座もろともに撃たれました。

あなたはかれらの妻を奪い取らせ、

娘たちをとりことして渡されました。

またあなたを熱愛し、

かれらの血の汚れを憎み、

あなたに助けを祈り求めたあなたの愛する子らに、

すべての分どり品をわけ与えられました。
 ああ神よ、わたしの神よ、
 やもめであるわたしにも耳を傾けてください。

あなたはこれらのこと、

またその前に起こったこと、その後に起こったこと、すべてをなさいました。
 今日あることも、後に起こることもあなたが企てられたことであり、
 これらはみなみ心のままに実現されました。

あなたのはかりごとはみまえに立ち、

『ここにおります』⁽⁶⁾と言います。

あなたのすべての道は整えられ、

あなたのさばきは先見をもって行なわれます。

あなたの御力は、人の数ではなく、
あなたの権力は、強い人によるものではありません。
あなたは小さき者の神、

奴隸をその指導者もろともに、
指導者をその臣下もろともにお撃ちください。

女の手をもって、かれらの高ぶりをお打ちください。

(7) ブルガタ訳は6—11節で、イスラエル人のエジプト脱出を阻止しようとしたエジプト軍の潰滅を思い起させる。かれらは強力であったが、ヤーウェの力で滅ぼされた(出14¹⁹—29参照)。ヤーウェは過去においても現在においても戦争の審判者である。神にのみ信頼するイスラエル人にとっては、高慢にも戦力にのみ頼る異邦人は、常につまずきであった。それで預言者たちは、軍事同盟と軍備をあざけり、のろい、何度も神に頼るようにあらかじめ警告した(イザヤ22⁸—11, 30¹—5, 31¹—3参照)。

(8) 神殿にあるいけにえの祭壇の四つのすみにヤーウェの力を象徴する角があつた(出27²、ルカ1¹⁶参照)。この角にはひ(此)護權があり、これにつかまつて居る間、犯人は法権外にあつた(列上2²⁸参照)。なおこの角を切り落とすことはヤーウェの祭式を滅ぼすことを意味する。

(9) 神は異邦人の高慢を憎む(エゼキエル25⁶—7, 28⁶—10、ハバクク2⁴—5参照)。ブルガタ訳¹²節には「主よ、かれの高慢が、自分の劍で断たれるようにしてください」とある。

(10) ユディトは力のほかに巧みなことばが与えられることを祈る。ブルガタ訳¹³節には「わたしのくちびるの愛しさによってかれを擊つてください」とある。

かれらは聖所をけがし、
栄光のみ名の留まる幕屋を犯し、
剣をもって祭壇の角を切り落とそうと企てています。
かれらの高ぶり⁽⁹⁾を見られ、
かれらの頭上に御怒りを送り、
やもめであるわたしの手に、
わたしの計画を成し遂げる力をお与えください。
わたしの偽りのくちびる⁽¹⁰⁾をもって、

今や、アッシリア人はその兵力を増し、
その馬と騎手とに心おごり、
その歩兵の力を誇っています。

かれらはたてとやり、弓と石投げにたより、
あなたが戦いを打ち碎く主にましますことを知りません。

あなたの名は主であります⁽⁷⁾。

あなたの御力をもつてかれらの暴力を打ち破り、
御怒りをもつてその兵力を打ち碎いてください。

かれらは聖所をけがし、

剣をもつて祭壇の角を切り落とそうと企てています。

かれらの高ぶり⁽⁹⁾を見られ、

かれらの頭上に御怒りを送り、

やもめであるわたしの手に、

わたしの計画を成し遂げる力をお与えください。

わたしの偽りのくちびる⁽¹⁰⁾をもって、

10
1
2
3
4
5

ユ デ ィ ト、 とばをすべて言い終わり、一ひれ伏していた所から立ち上がり、侍町を出る。女を呼び、安息日と祝日とを過ぎた屋内に降りてきた。

そしてまとっていた荒衣を取り放し、やもめの服を脱ぎ、水で身を清め、高価な香油を塗り、髪を整え、頭飾りをし、夫マナセの生存中に着ていた晴れ着を身にまとつた。一そしてサンダルをはき、足飾り、腕輪、指輪、耳飾りなど、あらゆる飾り物を身につけ、自分を見る人々の目をひきつけるために、ひじょうに美しく化粧した。⁽¹⁾ それから侍女にぶどう酒の皮袋と油つぼとを渡し、いり麦と、干しいちじくと、チーズとパンとを袋に詰め、また自分の物^{*}をみな包んで、彼女に背負わせた。⁽²⁾

(11) このような神についての考えは聖書にしばしば見られる(サムエル上2¹以下、詩10¹⁴〔9³⁶〕など参照)。

(12) ユディトは五つの呼びかけで祈っている。最初の二つは民と種族に関するものであり、他の三つは宇宙全体に関するものである。

(13) ユディトの復しゅうは個人的なものではなく、宗教的かつ民族的動機に基づいたものである。彼女はユダヤ思想の根底をなす契約、神殿、シオン、神の子らの家が救われることを祈っている。

【注】(1) このようなイスラエルの女の化粧と身飾りについてイザヤ書(3¹⁶—24)には、もっと詳しくしるされている。ブルガタ訳⁴節には「主もまた彼女に光り輝く美しさを与えた。なぜなら、このように装いをこらしたのは、すべて肉欲から出たものでなく、淑徳から出たものだからである。そのため主は、彼女の美しさを増して、彼女がすべての人の目に、比類なくうるわしいと見えるほどになされた」とある。

(2) ユディトはこれらの食糧(サムエル上17¹⁷—18¹⁸参照)を携帯することによって、家を離れていても、飲

しいたげられた者の助け手、

弱い者のささえ手、見すてられた者の守り主、
望みなき者の救い主でおわします。⁽¹¹⁾

お聞きください、ああ、わたしの父の神、

イスラエルを相続人としてくださった神、
天地の主、もろもろの水の造り主、

あらゆる被造物の王、

わたしの偽りのことばが、
わたしの祈りをお聞きください。⁽¹²⁾

かれらの傷となり、打ち傷となるように。
かれらはあなたの契約と聖別された家と、

シオンの頂と、あなたの子らの持ち家とに対して、
残虐を企てたからです。

すべての民と種族とにさとらせてください、

あなたが神、すなわち全能にして力ある神であることを、

またあなたのほかに、イスラエルの民を守る者はいないことを」。

ルネスのもとに行き、真相⁽⁴⁾を告げ、かれが一兵もまたは一命も失わずに進軍し、すべての山地を治めることができるようにその道を示しましょう」。一兵士たちはこのことばを聞き、またその顔を眺めて——かれらが目のあたりに見た彼女は驚くほど美しかった——彼女に言った、「あなたは、われわれの主の所に急いで下って来て、命びろいをした。さあ、すぐホロフェルネスの天幕に行くがよい。われわれのうちのある者があなたを案内して、かれの手に渡すだろう。」主の前に出ても、心恐れず、あなたがいま言つたように告げるがよい。そうすれば、かれはあなたを優遇するだろう」。

そしてかれらはユディトと侍女とを同行するために、百人の兵を選び、彼女らをホロフェルネスの天幕に連れて行かせた。彼女の来たことが、天幕から天幕へ知れ渡ると、全陣営に大きな興奮が起こつた。護衛たちがユディトのことをホロフェルネスに告げる

食についての律法を守ることができた(12²参照)。偶々にさざげられた異邦人の食物(出34:15参照)や、ある種の動物(レビ11:4以下、マカバイト下6:18以下参照)また律法の規定によらないで殺された動物の肉(レビ17:15参照)は律法によつて食べることが禁じられていた。

(3) ユディトがその使命を成し遂げた時にも、司祭たちは彼女と同じことばを述べる(15⁹)。ブルガタ訳は「あなたの名が、聖者と義人の群れにはいるように」と加えている。

(4) ギリシア語の直訳は「真理のことば」。ユディトの言うまことしやかなことばは、実はホロフェルネスを偽ることばである(11:5-19参照)。このようなどまし討ちは、太祖時代(創27:19-25;34:13-29参照)にも、また約束の地占領の前後(ヨシニア2、士4:17-22参照)にも見られる。

ジアと町の長老カブリとカルミとに会つた。「かれらは、ユディトが着物を着替え、顔立ちが変わつてゐるのを見て、その美しさにひじょうに驚いて彼女に言つた、「われわれの先祖の神が、あなたに恵みをたれ、イスラエルの子らの誉れとエルサレムの榮えのために、あなたの計画を成就させてくださいますように」。

ユディトは神を礼拝した後、かれらに、「わたしのために町の門を開くように命じてください。あなたがたがわたしとともに語つたことを成就するために、出かけます」と言つた。そこでかれらはユディトの頼みどおり、門を開くことを若者に命じた。「かれらはそのとおりにした。ユディトは下女とともに出て行つた。そして山を下り、谷づかいに行く彼女の姿が見えなくなるまで町の人々は彼女を見送つた。

彼女らはまっすぐ谷を通つて行つた。アッシリア人の前線の巡察隊は彼女に出会い、「彼女を捕えて、「どこの者か、どこから來たか、どこへ行くか」と尋問した。彼女は答えた、「わたしはヘブライの娘で、かれらからのがれてきました。かれらはあなたがたに渡されて食いつくされるからです。」わたしは軍の総司令官ホロフェ

6 それからふたりはベツリアの町の門に向かつて出かけた。そしてそこに立つてゐるオ
7 ジアと町の長老カブリとカルミとに会つた。「かれらは、ユディトが着物を着替え、
8 顔立ちが変わつてゐるのを見て、その美しさにひじょうに驚いて彼女に言つた、

「われわれの先祖の神が、あなたに恵みをたれ、
イスラエルの子らの誉れとエルサレムの榮えのために、

(5) アッシリアの軍隊はみなユディトの美しさに驚き、ユダヤの男子をみな殺しにしようと考える。なぜならかれらは全世界の人々を魅了してしまったような美しい女を持つてゐるため、はなはだ危険だからである。ブルガタ訳(18節)は「このように美しい女たちを持つてゐるヘブライの民を、だれが侮ることができようか。彼女たちを手にいれるためだけでも、わたしたちはかれらと戦うべきではないか」としている。

〔注〕(1) ユディトの返事は長い。初めにホロフェルネスをほめ、彼女の言うことに耳を傾けさせる(9—10節)。次にイスラエルの民に対する神の摂理のあり方(9—15節)と、自分の使命について詳しく述べる(16—19節)。彼女は巧みにまぎらわしいことばを用いて話す。たとえば、10節の「主はそのはかりごとを決して仕損じないでしよう」の「主」は、ネブカドネザルか、ホロフェルネスか、またヤーウェをさすのかあいまいである。また「神はあなたによって、事を完全に成し遂げる」というユディトのことばは、ホロフェルネスの勝利を意味するように聞こえるが、実はかれのくびを打ち取ることを意味するものである。

間、人々は天幕の外に立つてゐる彼女の所に来て、その周囲を取りました。

人々はその美しさに驚き、彼女のゆえにイスラエルの子らをたたえ、口々に話し合つた、「このような女たちを持つてゐる民を、だれが侮ることができようか。ひとりの男も生かしておいてはならない。もしかれらを自由にしておくと、全地を欺いてしまうだろう」。

ホロフェルネスの近臣たちと、そのすべての臣下が出て来て、ユディトを天幕の中に連れて行つた。ホロフェルネスは天がいでおおわれた床に休んでいた。その天がいには真紅の布と金とエメラルドと宝石がちりばめてあつた。「彼女のことを聞いて、かれは銀の手かがりを持ちを先頭に、天幕の入口に出て來た。ユディトがホロフェルネスとその臣下の前に現われた時、みんなの者はその顔立ちの美しさに驚いた。ユディトはひれ伏してかれに礼をすると、かれのしもべたちは彼女を引き起こした。

ホロフェルネスはユディトに言つた、「女よ、安心せよ、恐れるユディト、ホロフ¹ことはない。わたしは、全地の王であるネブカドネザルに仕えようヘルネスを欺く²と望んだ者を、ひとりとして害したことはない。それで、もし山地に住むおまえの民が、わたしを侮らなかつたならば、わたしはその人たちにほこさきを向けなかつただろう。しかしかれらはみずからこのことを招いもべらと同じく、おまえを優遇するだらう」。

ユディトは答えた、「あなたのはしためのことばを聞きいれ、あなたののみまえで、あなた³の下女に語らせてください。わたしは今晩、主に少しも偽りを語りません。もしあなたがあなたの下女であるわたしのことばに耳を傾けてくださるならば、神はあなたによつて、事を完全に成し遂げ、そしてわたしの主はそのはかりごとを決して仕損じないもべらと同じく、おまえを優遇するだらう」。

ユディット書

でしよう。一全地の王ネブカドネザル⁽²⁾万歳。またその権力は万歳。かれは生きとして生ける者を導くためにあなたをつかわしました。人々があなたのおかげで、かれに仕えるばかりでなく、野の獣も家畜も空の鳥も、ネブカドネザルとそのすべての家の支配のもとに、あなたの力によつて生きるでしよう。

われたしたちはあなたの知恵と心の巧みさとを知っています。またあなたが國中で、最も勇敢で、知識に富み、戦術にすぐれたただひとりの人であることも、全地に知れわたっています。⁽³⁾

さで あなたが開いた会議で、アキオルが述べたことについては、わたしたちはかれのことばを聞いております。かれはベツリアの人々に助けられ、あなたに語ったすべてのことを、かれらに告げたからです。—それで主なる君よ、かれの言ったことを軽視せず、正しいことですから、そのことを心に留めておいてください。わたしたちの民は神に対して罪を犯さないかぎり、罰せられることもなく、また剣もかれらに打ち勝てないからです。

三が賜われて、その企てがむなしくなることはありません。まさに死がかれらの頭上におそいかかろうとしています。かれらが罪に負けたからです。かれらは悪をなすごとに、その罪によって神の怒りを招いています。一食糧が尽き、水が乏しくなったの

で、かれらは家畜を殺すことを思い立ち、また神がその律法の中で禁じているすべての物を食べることを決めました。 - また、エルサレムでわたしたちの神のみまえに仕える司祭のために聖別され、取り置かれた小麦の初穂と、十分の一のぶどう酒と、油とを使いはたすことを決心しました。これらものに対する一般の人はだれも手を触れることはでききません。 - エルサレムに住む人々でさえすでにこのようなことをしているので、かれらは長老会議の許可を受けようとしてそこに人々をつかわしました。⁽⁴⁾ 許可が得られると、かれらはのことを行なうでしょう。そしてその日、かれらはあなたに渡されて減びるでしょう。

17 あなたのはしためであるわたしは、すべてこのことを知り、かれらからのがれて來ました。神はわたしをつかわして、全地のうちでこれを聞くものは、だれでも驚くようなことをあなたとともに成し遂げさせようとしておられます。——あなたのはしためは信心深く、夜も昼も、天の神をあがめています。主よ、今あなたのはしためであるわたし

王に対するほめたたえの叫び声は今も昔も同じである。しかしエディトの万歳は皮肉的である。

(3) ネブカドネザル王をほめたたえたあとで、ホロフエルネスを称賛する。ユダイトは巧みに贅辞を述べて、ホロフエルネスの心を奪う。

(4) 聖別され、司祭のために取り置かれたささげものはいかなる場合でも、これに「手を触れることさえできない」と言って、ユダイトは律法にたてついて自分の民の行ないを責めているが、しかしやむをえない場合にはこ

143

140

11,18

はあなたのものにとどまり、夜ごと谷間に行き、神に祈りましょう。そうすれば、神はかれらが罪を犯す時、それをわたしに教えてくださるでしょう。「わたしはそれをあなたに知らせにまいります。その時、全軍を引き連れて出陣なさるならば、かれらのうちだれひとり、あなたに立ち向かう者はいないでしょう。」わたしはあなたを案内してユダヤの中央を通り、エルサレムに至り、あなたの王座を、その中心に備えましょう。そしてあなたはかれらを牧者のない羊のように連れ去り、一匹の犬も、あなたに対してうなることさえできないでしよう。これらのことは先見によつて知らされ、かつ教えられ、わたしはそれをあなたに告げるためにつかわされました」。

彼女のこのことは、ホロフェルネスをはじめそのすべての臣下の気にいた。そしてかれらはその知恵に驚いて言つた、「地のはてからはてに至るまで、この女のようない、美しい顔をし、賢明なことばを語る者はだれもいない」。ホロフェルネスは彼女に言つた、「神がおまえの民に先んじておまえをつかわされたのは、よいことであった。われわれの手には力が与えられており、わたしの主を軽んずる者には滅びがある。おまえはみめうるわしいばかりでなく、巧みなことばを語る。もしおまえが言つたとおりにおまえが行なうならば、おまえの神はわたしの神となり、⁽⁶⁾おまえはネブカドネザル王の家に住み、おまえの名は全地に知れわたるであろう」。

さてホロフエルネスは部下に命じて、自分の銀の器の置かれていた所へやに彼女を連れてこさせた。そして自分の食料品を彼女の前に並べた。「しかしユディトは言つた、「罪を犯すことになりますから、おまえの民はひとりもいなないから」。ユディトは答えた、「主よ、ご安心ください。きっとあなたのはしためであるわたしが、手持ちを使い果たさないうちに、主は、わたしの

のような律法は、その義務を負わざないことを彼女は知っていた（サムエル上21⁴⁻⁹参照）。

(5) 「牧者のない羊」（列上22⁷参照）や「犬もほえることができない」（出11⁷、ヨシュア10²¹参照）などの句は、東洋人のよく用いる比喩的表現で、だれも敵対できないことを意味する。

う、と述べる（エステル2章参照）。

(2) ユダイトは、律法で禁じられた食事を取るのは、神に対する罪を犯すことになり、この場合、神の計画の成就を妨げることとなるので、ホロフェルネスが与える食事を辞退する。同じようなことが旧約後期の書にしばし

手で、その定められたことを成し遂げられるでしょう」。

ホロフェルネスの部下たちは、彼女を天幕に連れて行つた。彼女は夜中まで眠り、夜の明けるころに起きた。「彼女はすでにホロフェルネスを使いをつかわして、「どうぞ、主よ、あなたのはしためであるわたしが祈りに出かけることができるよう取り計らつてください」と言わせておいた」。そこでホロフェルネスは護衛兵に、彼女を邪魔しないように命じた。彼女は三日間、陣営に宿り、夜ごとに、ベツリアの谷に出来、陣営のかたわらの泉で身を清めた。泉から出て、イスラエルの主なる神に、自分の民の子らを立ち上がらすため、その歩みを導いてくださるようと祈つた。「そして清浄な身でもどり、夕方、自分の食事が運んでこられるまで、天幕にとどまつた」。

四日目に、ホロフェルネスは近臣だけのために宴を張つたが、士官はひとりも招かなかつた。かれはその財産をつかさどるかんがんバゴア⁽⁶⁾に言つた、「さあ行け、おまえのもとにいるヘブライの

ユディト、ホロフェルネスとともに食す 女を説きすすめ、われわれの所にきて、いつしょに飲食するようさせよ。もしこのような女を抱かずに返すならば、われわれの恥となるであろう。もし彼女を抱かないならば、かえつて彼女はわれわれをあざけり笑うだろう」。それでバゴアスは、ホロフェルネスの前を退き、彼女のもとに行き、そしたしましよう。これこそ死の日までわたしの喜びとなるでしょう」。そこで彼女は立ちばしるされている(ダニエル¹、トビト¹、マカバイ下⁶—⁷参照)。

(3) この答は預言的な強い表現である。彼女は自分の食糧が尽きないうちに、主のご計画が成し遂げられることを確信している。なお、彼女独特の話術については本章注⁸参照。

(4) 直訳では「彼女は……夜の明けるころに起きた。そしてホロフェルネスを使いをつかわした」。しかしユディトが夜明けに使いをホロフェルネスのもとに送ったとは考えられない。したがつて、「使いをつかわす」を過去完了形で「すでに……つかわして……言わせておいた」と訳した。ブルガタ訳⁽⁵⁾には「天幕にはいる時、彼女は主に祈り願うため、夜と夜明け前に外出できる許可を願つた」とある。

(5) ユディトはホロフェルネスの睡管でも律法のおきてを忠実に守る。また、ベツリアにいたときと同じように、ここでも断食をし、祈りと沈黙の生活を続ける(8⁹節参照)。断食は二日間(7節参照)続いた。エステルもアハシュエロス王の前に出るために、同じ期間だけ断食した(エステル4¹⁶参照)。

(6) ブルガタ訳ではバガオ⁽¹⁰⁾節参照)。「バゴアス」はペルシア語で、「かんがん」の意。同名の人物は歴史中にたくさんいる。特にペルシアやマケドニアの侍従の中に多い。かれらは、おおかたかんがんであつた。アルタクセルクセス三世(オコス)の侍従のひとりであったバゴアスは、おそらく本書のバゴアスと同一人物であろう(解説91ページ参照)。

て言った、「うるわしいおとめよ、どうぞわたしの主の所にきて、その前でおほめにあずかりなさい。そしてともに楽しみ、ぶどう酒を飲み、きょうこそは、ネブカドネザルの家に仕えるアッシリアの娘のようになりなさい」。ユディトはかれに言つた、「どうして主にさからうことができましょうか。お気に召すなら、どんなことでもただちにいたしましよう。これこそ死の日までわたしの喜びとなるでしょう」。そこで彼女は立ち

11
10
12
11
12
13
14
15

11
12
13
14
15

(7) 「娘になる」の表現は、ホロフェルネスの婦人室のひとりになることを意味する。

(8) こゝでも、ユディトは一つの意味を含めて話す(4節参照)。「主」はバゴアスにとつてはホロフェルネス

5
た、

「全能の神である主よ、

今こそエルサレムの榮えのため、
わたしの手のわざをかえりみてください。

今こそあなたの遺産を助ける時、
われわれに立ち向かつた敵を滅ぼすために、
わたしの企てを実行する時ですか⁽¹⁾から」。

をさすが、彼女にとつては主なる神である。それで、ユディトは心からバゴアスの招きを承諾し、「お気に召すならどんなことでも……」と言う。また神のご計画を果たす情勢が熟しているのをさとつて感謝する。

【注】(1) ユディトは自分の計画が成功するように、熱心に神に祈りをささげる。ブルガタ訳(6節)には、「床の前に立ち、涙ながら、かすかにくちびるを動かして祈り……」とある。エヌテルの祈り(エヌテル4^{1/4}—1^{1/4})と異なり、彼女のこの祈りには復しゆうの思いはない。ユディトは旧約時代の義人のように(詩74〔73〕¹⁸を参照)、三つの高い動機をもつて祈る。すなわち(1)神の都であるエルサレムの名譽のため、(2)ユダヤを占領しようとする敵から、ヤーウェの遺産を救うため、(3)ヤーウェの敵を滅ぼすためである。

ユディトははいって、そこに身を横にした。ホロフェルネスは心を奪われ、その魂はゆり動かされ、彼女と交わることを熱望した。かれは彼女をはじめて見たその日から、誘惑するおりをうかがっていた。「ホロフェルネスは言つた、「さあ、飲んで、われわれといっしょに楽しめ」。ユディトは答えた、「主よ、いただきます。生まれてこのかた、今日ほど、わたしの一生において最良の日はありません」。そして、かれの前で、自分のはしためが整えたものを取つて飲食した。ホロフェルネスは彼女が気に入り、生まれて以来、一日のうちに、これほど飲んだ日はないくらい、たくさんのがどう酒を飲んだ。

日暮れになつたので、ホロフェルネスの近臣たちは、急いで立ちユディト、ホロフエルネス　幕をとじた。すべてのものは宴会が長引いて疲れていたので、寝床の首を取る　にはいった。しかしユディトはただひとりホロフェルネスとともに天幕に残つた。かれはがどう酒に酔いしれて寝台に伏していた。

ユディト、ホロフェルネスは心を奪われ、その魂はゆり動かされ、彼女と交わることを熱望した。かれは彼女をはじめて見たその日から、誘惑するおりをうかがっていた。「ホロフェルネスは言つた、「さあ、飲んで、われわれといっしょに楽しめ」。ユディトは答えた、「主よ、いただきます。生まれてこのかた、今日ほど、わたしの一生において最良の日はありません」。そして、かれの前で、自分のはしためが整えたものを取つて飲食した。ホロフェルネスは彼女が気に入り、生まれて以来、一日のうちに、これほど飲んだ日はないくらい、たくさんのがどう酒を飲んだ。

さてユディトはそのはしために、寝室の外に立ち、いつものとおり、自分が出てくるのを待つようにと言つた。自分は祈りに出かけるからと言い、またこのことをバゴアスにも知らせておいた。「それでみな、大なる者も小なる者も、かれの前をしりぞき、寝室にはだれひとりいなかつた。ユディトはかれの寝台のかたわらに立ち、心中で祈つた、

えなさい。イスラエルの家からそのあわれみを奪わず、かえつて今夜、わたしの手をもつて、敵を滅ぼされた神をほめたたえなさい⁽⁵⁾」。

そして袋から首を取り出し、それをかれらに示して言つた、「これこそアッシリヤ軍の総司令官ホロフエルネスの首です。ごらんください、この天がいを、この下でかれは酔いしれて伏していました。主は女の手をもってかれを打たせてくださいました。」主に栄えあれ。また主はわたしの行く道を守つてくださいました。わたしの顔はかれを欺き、滅ぼしましたが、かれはわたしを汚し、はずかしめるような罪を犯すことはできません⁽⁶⁾」。

(2) ギリシア語の本来の意味は「三日月形の剣」(16^節参照)。これはギリシアのそれとは異なり、ルーブル博物館にある「クセルクセスとダレイオスの浅浮彫り」に見られるまつすぐなペルシアの剣。

(3) 「あけてください」と二回、同じ句をくり返すことは、ホロフエルネスに対する大勝利を告げるユディトの深い感動を示している。「今もなお」とあるのは、現在も、ヨシュアと士師の時代におけると同じくヤーウェがイスラエル人に勝利を与えていたことを意味する。「わたしたちとともにいます」は、すなわち「インマヌエル」のこと(イザヤ7^節参照)。「その力」「その強さ」は、神が敵に対し恐るべき強い勇士であることを示し、イスラエルはその勝利をたたえて喜ぶ(詩68[67] 98[97]—¹参照)。

(4) ブルガタ訳(16^節)は「彼女は高い所にのぼり、沈黙を命じた」と付け加え、勝利者の威儀を示している。

(5) 「神をほめたたえなさい」と三回繰り返されているが、これは「アレルヤ」の喜びの叫びである。

(6) ユディトは神の助けにより、恥ずかしい罪を犯すことなくその使命を果たした。ブルガタ訳(20—21^節参照)は、彼女が敵陣に行く時も、そことどまつていてる時も、また敵を打つてもどつてくる時も、常にヤーウェの

り、「寝台に近づき、かれの頭の髪をつかみ、そして「主なるイスラエルの神、今こそ、わたしに力を与えてください」と願つた。「そして力いっぱい、一度、首を打ち、首をからだから切り離した。」それから、からだを寝台からころがし、柱から天がいを引きおろした。しばらくして出て行き、ホロフエルネスの首を侍女に手渡した。「彼女はそれを食べ物の袋に入れ、ふたりはともに、いつもと同じく祈るために行くようにして出かけた。かれらは陣営を過ぎ、谷をめぐり、山を登つてベツリアに行き、その門に到着した。

ユディトは遠くから門の番兵たちに叫んだ、「あけてください、門を開けてください。神は、わたしたちの神は、今もなお、わたしたちとともにいまし、きょうなされたように、イスラエルのためにはその力を、敵に対してもその強さをあらわしてくださいます」。

町の人々はその声を聞き、急いで町の門にかけ下り、長老たちを呼び集めた。¹³みな、大なる者も小なる者もともに走つてきた。彼女が帰ってきたことは思いがけないことだったからである。そして人々は門を開き、ふたりを迎え、火をつけて明るくし、彼女らを取り囲んだ。¹⁴ユディトは声を張り上げて言つた、「ほめたたえなさい、神をほめたたえなさい、神をほめたたえなさい、神をほめたたえなさい⁽³⁾」。

人々はみな非常に驚き、身をかがめて神をおがみ、声を合わせて言つた、「われわれの神よ、あなたは賛美せられますように。あなたは、きょう、あなたの民の敵をことごとく滅ぼされました」。

オジアは彼女に言つた、

「娘よ、あなたは地上のすべての女のうちで、⁽⁷⁾ いと高き神に祝せられた者である。

あなたを導いて、

敵の首領の首を撃たせた天地創造の主なる神は、祝せられますように。

人々は神の力を思い出し、あなたの示した信頼は、かれらの心から、永遠に消えうせないであろう。

神がこのことをあなたの永遠の誉れとし、

多くの恵みをもつてあなたをおとずれられるように。

あなたはわれわれの民が卑しめられたとき、命をおしまず、われわれの神のみまえにまつすぐあゆみ、われわれから滅びを遠ざけた」。

すると人々はみな、「アーメン、アーメン」と答えた。

ユディトは人々に言つた、「兄弟たちよ、聞いてください。このイスラエルの子 首を取り、城壁のやぐらに掛けなさい。⁽¹⁾ 太陽が地上にのぼり、夜ら、アッシリア が明けるやいなや、おののおの武器を取り、すべての勇士は町の外に軍を攻撃 出なさい。そしてかれらにひとりの指揮者を任命し、あたかもアッシリアの子らの前衛部隊に向かって平野になだれこむかのように見

使ひが彼女を守り、罪からのがれさせたと述べ、そして彼女は民とともにイスラエルの大祝日に唱える感謝の詩編（136〔135〕参照）を歌い出した、とするしている。

（7）オジアはユディトに「娘」と呼びかけ、地上のすべての女のうちで祝福された者とたたえる。ヤエルも（士5²⁴参照）、また聖母マリアも（ルカ1⁴²参照）、この同じ称賛のことばを受けている。教会はブルガタ訳の23—25節の句を用いて聖母を賛える。「娘よ、あなたは地上のすべての女のうちで、いと高き主なる神に祝せられた者である。天地の創造主であり、あなたを導いてわれわれの敵将の首を打つてくださった主は賛美せられますように。主は今日、あなたの名を、このように誉めあるものとされた。それで、あなたに対する賛美は、永久に神の力を記憶する人々、またあなたが同族の困苦と患難とのために自分の命を惜しまず、われわれの神のみまえにおいて滅亡から救つた人々の口から絶えることはないであろう」。

【注】（1）ユディトは敵を滅ぼすために軍司令官のようにペツリヤの人々に命令する。信仰が女の心に戦術を見いださせ、勇気を起こさせたことは、古代のデボラ（士4⁶—15参照）や近世のジャンヌ・ダルクの行為にも見られる。首や分どり品を人々に示すことは勝利のしるしである。ユダ・マカバイ（マカバイ下15³⁵参照）もニカノルの首を城のとりでにかかげた。

人々はみな非常に驚き、身をかがめて神をおがみ、声を合わせて言つた、「われわれの神よ、あなたは賛美せられますように。あなたは、きょう、あなたの民の敵をことごとく滅ぼされました」。

オジアは彼女に言つた、

「娘よ、あなたは地上のすべての女のうちで、⁽⁷⁾ いと高き神に祝せられた者である。

あなたを導いて、

敵の首領の首を撃たせた天地創造の主なる神は、祝せられますように。

人々は神の力を思い出し、あなたの示した信頼は、かれらの心から、永遠に消えうせないであろう。

神がこのことをあなたの永遠の誉れとし、

多くの恵みをもつてあなたをおとずれられるように。

あなたはわれわれの民が卑しめられたとき、命をおしまず、われわれの神のみまえにまつすぐあゆみ、われわれから滅びを遠ざけた」。

(2) ここでユディトは、出かけたその日から、話しているその時までの出来事の一部始終を人々の前でかれに物語った。一話が終わると、人々は大声に叫び、町中、喜びの声をあげた。「アキオルは、イスラエルの神がなされたすべてのことを見て、堅く神を信じ、割礼を受け、イスラエルの家に加え入れられ、今日に至っている。

(3) 夜明けとともに、イスラエル人は、ホロフェルネスの首を城壁に掛け、おのおの武器を取り、隊を組んで山の坂道へ出て行つた。「アッシリヤの子らは、かれらを見ると、班長たちに伝令を出し、班長たちはその隊長、千夫長、およびすべての指揮官たちの所へ

(4) 直訳では「人をかれに見せ、かつ確認させる」。

(5) 「今日に至つては」は決定的にアキオルがイスラエル民族に加えられるに至つたことを意味する。アンモン人はその先祖アキオルにならつて、出来事からかなり経過した著者の時代においても、割礼を受け、イスラエルの神を忠実に信奉していた。割礼は神とその民との間の契約のしるしであるが（創19-14参照）、昔からイスラ

せなさい。しかしなだれこんではなりません。⁽²⁾「するとアッシリヤ人はその武具を取り、陣営にはいり、アッシリヤ軍の隊長たちをおこし、急いでホロフェルネスの天幕に行くでしょう。しかしあれは見つからないでしょう。それで恐怖がかれらを襲い、あなたがたの前から逃げ去るでしょう。あなたがたと、イスラエルの領土内に住むすべての者は、そのあとを追い、退却するかれらを撃ち滅ぼしなさい。⁽³⁾しかしこれをする前に、アンモン人アキオルをわたしのもとに呼んできてください。⁽⁴⁾かれに首実験をさせて、これがイスラエルの家を侮り、またかれを死に渡してわたしたちのところに送つた者であること認めさせるためです」。

そこでかれらはオジアの家からアキオルを呼び寄せた。かれは来るやいなや、集まつた人のひとりが持っていたホロフェルネスの首を見て、顔を地に伏せ、氣を失つてしまつた。⁽⁵⁾再び意識がもどると、ユディトの足もとに身を投げ、彼女の足もとにひれ伏し、うやうやしく言った、

「あなたはユダのすべての天幕で、

またもろもろの民の間で、祝されますように。
あなたの名を聞く者はみな驚くでしょう。

さあ、この数日間になされたすべての事を、

バゴアスははいって行き、かれがユディトとともに寝ているものと思い、天幕のとびらをたたいた。⁽⁷⁾「返事がないので、あけて寝室にはいってみると、ホロフェルネスは死んで床の上に投げすてられ、その首は切り取られていた。」それでかれは声を張り上げ、泣き、うめき、いたく叫び自分の着物を引き裂いた。⁽⁶⁾「それからユディトがとどまつていた天幕に行つてみたが、彼女はいなかつたので、人々のほうへ駆け出して叫んだ、「あの奴隸どもは、われわれをたばかつた。ひとりのヘブライの女が、ネブカドネザル王の家に恥を与えた。見よ、地に横たわっているホロフェルネスを。首もない」。

これらのことを見て、アッシリア軍の指揮官たちは、上着を引き裂き、心はちじに乱れ、大騒ぎとなり、叫びが陣営のすみすみに満ちた。

天幕にいた人々は、この出来事を聞いて驚いた。²恐れとおののきとにおそれたかれらはみな、他の者には目もくれず、あわてふためいて、いっせいに平地と山地のあらゆる道を通つて急いで逃げ出した。³ベツリアの周囲の山地に陣をしいていた者たちも逃げ去

へ行つた。一やがてかれらはホロフェルネスの天幕に来て、副官に言つた。「主君を起こしてください。あの奴隸どもが、無謀にもわれわれに戦いをいどみ、全滅されるためおりてきていますから」。

エル人に属する奴隸や異邦人（創17²³参照）にも、同盟者（創34¹³⁻²⁵参照）にも授けられていた。しかしイスラエル人が布教に力を注ぐようになり、改宗者を募つたのは、旧約末期のことである（エステル8¹⁷9²⁷参照）。ただし、アンモン人とモアブ人に対する特別な律法の規定があり、かれらは永久にイスラエルの集会から除外された（申23³⁻⁵参照）。ここで問題となるのは、アキオルとそれ以後のアンモン人に対しては、右の律法が守られていないことである。おそらく、これはこの律法が一時的なものであつたか、または例外を認めていたからであろう。

（6）ブルガタ訳（12節）では「あのねずみどもが穴を出で来て、こしやくにも、われわれに戦いをいどんできましたから」。なおサムエル上14¹¹にこれと似た表現がある。

（7）バゴアスは天幕にはいったが、寝室にはいらなかつた。寝室はカーテンかとびらで仕切られていた。ブルガタ訳（13節）には「カーテンの前に立つて、手を打ち鳴らした」とある。

【注】（1）アッシリア軍の敗北の初めである。ブルガタ訳（1b²節）は、かれらがわれがちに逃げ去るありさまを、「かれらは勇氣も分別も失い、恐怖とおののきにかられ、ひたすら身を守るために逃げた。隣の人と話す者はだれもいなかつた。みな頭を下げ、すべての物を残したまま、急いでヘブライ人からのがれようとした……」と生き生きと描写している。これに類似したことは列下7⁶⁻¹、イザヤ37³⁶⁻³⁹などにも見られる。

（2）ブルガタ訳（3⁴節）にはイスラエルの子らが、「ラッパを吹き鳴らし、ときの声をあげ、一隊となつて敵を打ち払つた」とある。

（3）ペトマスタイルとコバイについては、⁴注⁷⁻¹⁰参照。ペバイとコラの所在は不明。おそらく誤写であろう。

て、かれらを殺りくした。エルサレムとすべての山地の人々も、敵陣で起こつたことを知つてやつて來た。またギレアデとガリラヤの人々も、かれらを側面から襲い、大打撃を与え、ダマスコと、その境を通り過ぎるまで進んだ。ベツリアに残つた住民は、アッシリヤ軍の陣地を襲い、これを略奪し、多くの富を得た。また敵を殺りくしてもどつたイスラエルの子らも残りを取つた。豊富に物が残されてあつたので、山地と平地の村と部落の人々は多くの戦利品を手に入れた。⁽⁵⁾

エルサレムに住んでいた大司祭ミアキムとイスラエルの子らのユディト、ほめ長老会の人々は、主がイスラエルになさつた恵みをたたえ、またユディトに会つてあいさつするため(6)に來た。一かれらは彼女のもとに来て、みな口々に祝して言つた。

「あなたはエルサレムの榮え、
あなたはイスラエルの大きな誉れ、

あなたはわれわれの民の大きな誇りです。

あなたは、すべてこれらをあなたの手をもってなし遂げ
あらん。ニシニシ、ニシニシ、ニシニシ。

イヌテエルによいことをもたらしました

卷之三

全能の主がとこしえに、
あなたを祝福されますように」。⁽⁸⁾

人々はみな「アレバシ」と言つた

人々は三十日間にわたって、陣営をかすめ、ユディットにホロフエルネスの天幕とそのすべての銀製品、寝台、容器、また家財とを与えた。彼女はこれらを受取り、らばに載せ、また荷馬車も用意してこれに積み上げた。—イスラエルの女はみな、彼女を見に走りいで、彼女を祝福し、彼女をたたえて踊った。ユディットは手にテイルソスの枝を取(9)

(4) 「すべての山地」は本書では普通ギルボア山とカルメル山の南の山岳地帯をさすが(5371c)、本節では特にユダヤの山地をさしている。

(5) 分どり品は勝利のしるしである。本書の著者はイスラエル人が多くの分どり品を手に入れたことについて好んで書きしるす（イザヤ9：参照）。分どり品に関してはエステル書ではこれと全く反対の記述が見られる（9：16参照）。

ブルガタ訳(411)はエリヤキムと呼んでいるが、ここではヨアキムとしている。しかし、同一人物をさす。(7)これらの句は無原罪の聖母をたたえるために教会で用いられている。神の民を解放するため敵将の首を切

（8）ブルガタ訳（11節）はユディトの力と勇気は、やもめとして彼女が守った貞潔の結果であるとし、「あなたは、おおしくふるまい、あなたの心は強固であった。それはあなたが貞潔を愛し、夫をなくしてからは、他の夫を知らなかつたからです」とするしている。

アッシリアは北の山からおりきたり、
数万の軍勢を引き連れ、
その群れは早瀬をせきとめ、
その馬は丘をおおつた。
かれはわたしの領土を焼き払い、
わたしの若者たちを剣をもって殺し、

で、その上には、つたとぶどうの葉と松かさがつけてあった。この語は本節とマカバイ下¹⁰にのみ出る。なお、
ユダヤ人の祭りの仕方については出¹⁵²⁰、士¹¹³⁴²¹～²⁴、サムエル上¹⁸⁶、エレミヤ³¹⁴～¹³参照。

(10) この歌は、モーセ(出¹⁵章参照)やデボラ(士⁵章参照)やハンナ(サムエル上²～¹⁰参照)の賛歌を思
わせる美しい交唱である。

【注】(1) この賛歌は三部にわかれる。(1) 主題を与える導入部(1～2節)。(2) ユディトによるアッシリア軍の敗
北とイスラエルの大勝利を歌う発展部(3～12節)。(3) 神の力とその偉大さに対する賛歌(13～15b節)、また神を恐れ
る人々に対する慈悲と敵に対する罰(15c～17節)をしめす終結部。

(2) この賛歌はアレルヤで始まる(原文批判参照)。鼓とシンバルはかぐらの伴奏楽器(出¹⁵²⁰～²¹、詩⁸¹〔⁸⁰〕³参照)。

(3) 「戦いを打ち破る神」(9⁷参照)は、戦いの勝敗をその手に收めているのは、イスラエルの神であること
を意味している(出¹⁵³、詩⁴⁶〔⁴⁵〕⁹～¹⁰、⁶⁸～⁶⁷、²⁹参照)。

(4) イスラエルの敵は北方から下った。この道は昔、侵入者たちが通ったケレシリア街道である。敵の軍勢を
表わす数々の表現は、西方の戦いが始まると前に、ホロフェルネスに言つたネブカドネザルのことばを思い出させる
(2⁷参照)。高慢なセナケリブは兵隊の足でエジプトのすべての川を踏みからしたと言つてゐる(イザヤ³⁷²⁵参照)。

「鼓をもってほめたたえよ。^{*}
シンバルをとつてわたしの主を祝してうたえ、⁽²⁾
主に新しい歌^{*}の調べをささげよ、
主をあがめ、その名を呼び求めよ。
主は戦いを打ち破る神⁽³⁾であり、
その民の中に陣営を築き、
わたしを追手の手から救い出した。

ユディトが、全イスラエルに向かつて、次の感謝の歌⁽¹⁰⁾をうたいは
じめると、人々はみな同じたたえの歌を声高らかにうたつた。ユ
ディトは歌つた、⁽¹⁾

り、ともにいた女たちにこれを与えた。彼女も、またともにいた女たちも、オリーブで
作つた冠をつけた。彼女は踊つてゐるすべての女たちを指揮し、人々の先頭に立つて進
んだ。イスラエルの男はみな武具を身に着け、冠をかぶり、人々に歌をうたいつつ徒
た。

12 11 10

その美しさはかれの心をとらえ、
剣はかれの首をはねた。⁽⁶⁾

ペルシア人はその勇氣におののき、
メデイア人はその胆力に驚いた。⁽⁷⁾

わたしのしいたげられた民は、喜びの叫びをあげた。
わたしの弱い民が叫ぶと、敵は身をふるわした。

わたしの民が声をあげると、敵は逃げ去った。

か弱い女の子らがかれらを突きさし、
かれらは落ち人の子らのように傷つき、

(5) かよわいメラリの娘である勝利者ユディトとタイタンや巨人にも匹敵する敗北者アッシャリア軍とが美しい対句で描かれている。「タイタン人の子ら」はヘブライ語「ギボリム」の訳。「タイタン」と「巨人」は、ギリシア神話から出たもので、最も強力なものを表わすために当時一般に用いられていた表現。これと類似の表現は民13³²⁻³³、申2¹¹、サムエル上17⁴⁻¹に見られる。

(6) 錐さをもつ簡潔なこの最後の一句は、ユディトの化粧を入念に述べた前句と著しい対照をなしている。この一句によって、剣が心臓にまで達するような思いを読者に起こさせる。

(7) アッシャリア軍のうちにメデイアとペルシアの兵隊がいることは不可解であるが、もし、ペルシアのアルタルクセルクセス二世をさすのにネブカドネザルの名を用いたとするならば、理解できる(一注1参照)。

しかるに全能の主は、女の手をもって、
かれらの望みをむなしくした。
かれらの力あるおさは、若者によつて倒されたのではなく、
タイタン人の子らがかれを打ち破つたのでもなく、
だけだけしい巨人がかれを撃つたのでもない。
メラリの娘ユディトが、その美しい顔をもつてかれを弱めたのである⁽⁵⁾。
イスラエルのしいたげられた民を立ち上がるさせるために、
彼女はやもめの服を脱いだ。

かれを欺くために、彼女は顔に香油を塗り、
髪を頭飾りで結び、
麻の服をまとつた。

そのサンダルはかれの目を奪い、

わたしの乳のみ子たちを地に投げすて、
わたしの幼な子たちを奪い取り、
わたしのおとめらを連れ去ると、広言した。

さてかれらはエルサレムに着いた時、神を礼拝した。人々は清めを受けるとすぐに金焼納祭と、任意奉獻のいけにえと、礼物とをささげた。⁽¹³⁾ —ユディトもまた人々から受けする。

(8) 本節から新しい賛歌が始まる。詩編によく見られる表現を用いてつづられている。本節は詩⁸⁶〔85〕¹⁰「14」〔13〕⁹と、¹⁴節は詩³³〔32〕¹⁰「13」⁹「14」¹⁰「14」¹¹「14」¹²と、¹⁵節は詩²⁵〔24〕¹⁴「97」〔96〕⁵「103」〔102〕¹³と、¹⁶節は詩⁵¹〔50〕¹⁸「19」とそれぞれ符合する。

(9) これは神の出現や審判についてする場合の表現（士⁵₅、詩¹⁸〔17〕⁸、イザヤ⁶⁴₃ハバクク³₆参照）。

(10) 神に対するい敬の念が最も大切で、それがなければ、どんな供え物でも無価値に等しいとするのは、旧約時代の一般的教えである（サムエル上¹⁵₂₂、詩⁵¹〔50〕¹⁸「19」、ホセア⁶₆参照）。

(11) このギリシア語原語はヘブライ語の「エル・シャツダイ」または「万軍の神」という表現に起因する（創²注²参照）。

(12) 本節は敵に対する神の罰のひどさを表わしている（イザヤ⁶⁶₂₄、マルコ⁹₄₃参照）。ブルガタ訳（²¹節）には、「かれらの肉に火とうじとを与えて、かれらを永久に焼き、苦しめるであろう」とある。

(13) 敵から解放された後、エルサレムへ感謝の巡礼をしたかれらは、（）ひれ伏して真の神を礼拝し（⁴II参

しかしあなたは、あなたを恐れ敬う者に、つねにあわれみをたれる。⁽⁹⁾
どんなかぐわしいかおりのいけにえもその価値は小さく、

あなたにささげられる肥えた全焼納祭のどんないけにえも、
その価値はいと小さい。

岩はあなたのみまえでろうのように溶けるであろう。

ただ主を恐れ敬う者のみがとこしえに偉大である。⁽¹⁰⁾
わたしの民にさからって立つ国々は災いである。
全能の主は、さばきの日にかれらにあだをかえし、
その肉に火とうじとを与える。

かれらは永遠に苦しみ泣くであろう。⁽¹²⁾

あなたが仰せられると、それらは造られ、
あなたが靈を吹き込まれると、それらは形造られた。
だれもあなたの声を拒むことはできない。
山々は海とともにそのふもとから揺れ動き、
岩はあなたのみまえでろうのように溶けるであろう。

わたしは神に新しい歌をうたおう。
わたしの主の戦いでついた。

主よ、あなたは偉大であり、栄光に満ちておられる。

あなたの力は感嘆すべく、不敗⁽⁸⁾である。

もちろもの被造物はあなたに仕えよ。

あなたが仰せられると、それは造られ、

あなたが靈を吹き込まれると、それは形造られた。

だれもあなたの声を拒むことはできない。

岩はあなたのみまえでろうのように溶けるであろう。

たホロフェルネスのすべての家財をささげ、さらに彼女自身、かれの寝室から自分で取つて來た天がいを永久にのろわれた物⁽¹⁴⁾として神前に置いた。人々は三か月の間、エルサレムの神殿の前で祝賀式をつづけ、ユディトもかれらとともにとどまつた。

ユディト、天寿

リアにもどり、自分の財産で暮らし、当時その名は國中に知れ渡つ

その後、人々はおのおのその遺産の地に帰つた。ユディトはベツ

を全うする

た。「多くの人々が彼女と結婚しようと思んだが、夫マナセが死に、かれの身内のなき数に入れられたその日から、終生彼女を知つた男はいなかつた。彼女はますます世に知られ、夫の家で百五歳の老年まで生き、侍女に暇をやり、ベツリアで死に、夫マナセのほら穴に葬られた。⁽¹⁵⁾イスラエルの家は、七日間、彼女のために喪に服した。死ぬ前に、彼女はその財産を夫マナセのすべての近親と、自分の近親とに分け与えた。ユディトの在世中も、またその死後も、長い間、イスラエルの子らをおびやかすものは、だれもいなかつた。⁽¹⁶⁾

照)、(1) 死者の埋葬と敵の殺害とで汚れた身を清め(民19^{11,12}31¹⁹参照)、(2) 供え物の奉獻を行なう。

(14) この「永久にのろわれた物」(ヘブライ語でヘレム、ギリシア語でアナテマ)は、だれもこれに手を触れることができないものを意味している。この種の奉納物は聖書にしばしば見られる(レビ27注10参照)。ダビデがゴリアテの剣をノブの聖所に奉納物としてささげたのと似ている(サムエル上21⁹参照)。

(15) ユディトは神の恵みにより太祖たちのように長寿を全うした(創23¹25⁷35²⁸50²⁶参照)。アブラハムと妻

サラのように(創25¹⁰参照)、ユディトとマナセも同じほら穴に葬られた。

(16) ユディトはユダヤに平和をもたらした功労者として賞賛される。本書の終わりは「士師記」と同じ形式を取つている(士3¹¹31⁵32^{8,28}参照)。ブルガタ訳(31節)には、「この勝利を祝うため、祭りを制定し、「この勝利の祝日はヘブライ人によつて聖日の数に加えられ、それ以来今日までユダヤ人に守られている」としるされているが、それは歴史上不明。おそらくエスティルの祝日、またはブリムの祝日(エスティル9¹⁷⁻³²、マカバイ下15³⁶参照)になぞらえて本書につけ加えたものと思われる。